續驂栗毛四編

九上

本學所道
四上
五上
1

へ13
3759
3

門 へ13
號 3759
卷 3

備前藤井七四郎扁叙

七年此街を通行せしに、
横川の御関所を過ぎ江戸利
かるる茅葺の道ばたに立ちて、
其昔、行年の日暮れ日暮れて、
宿屋のと叩き問ふ時、茅柳

胴利より舊帽を高祝を取ぶし
徳右衛門と云者出して舞さしいたす
月世界の取てを
なを車次の五編ふ之段
[illegible]
計鳥の宮出返し
書の奇異
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の咲るを見て月の出るを待て
猿を得せし始末今次の茶屋にハ
隣の矢抜二階より出る所の
行の所のよるあり。亦同下に
乗ごもの侍よ必俗の話なし。
七年の秋阪より出る所なり

木蘇街道　續膝栗毛四編上巻

東武　十返舎一九著

市中ハ往居されば隣家の病人ハ酒宴乱舞乃
遠慮あり。偏法華あるそだくさ疫ハ使をゝそ。合巫の
唐臼ぢ痛を踏ハひとしけれ。条目の外のゑづひぢ
ゆ〳〵ばは。それハ松せんせぐるハ猿なり。夜毎ハかんる
うけるの木枕ハ魂ハ山野をかけまわる。乗云八百
誰ハ遠方もなし。法ハ尻くゝひ観音の来ハ

雑子
十返舎
山添町の
夕小新

福

輝くいびつなりの利生あらたなる。遠江幽霊乃
宿まも。飢ゑ寒ぐ。目よりも強くの糸をなりぐ先
耳よりろくのめづらしく紙と紙さく乗を読文書ても
ひとさびよ十年づゝ慣る命を延るの清合ろう。
されども孫ひろ長崎東八ま。東海道を移げの
元禄年代もつゝぶ。ふとろのうち淋しけまべ今ここそ
旅から紀天濃。近江の境。集ものめぐろ村よいろう。
茶屋よいろう休まるふ。夫婦とえて茶さぐこ盗

ちろぐあいろ
拐出挨拶しけまべ。かるみふ元あくど
夫婦して集ものかろへ表国中
さぞや ひとつよ夜のたのしこ
ト ぜひも神仏をあめ紀しるそうぐそのの男。コリヤ赤猫さ。祐ろう
おりてのくころう入り来さふくいしわ
もしこぬてこまさつ せん。こちの栗本ろ来ろと
男めと三太郎めぐ会合て。今紅げろぐどちく世ら
逐電しろつぶ。それよつあてけしのろいふものが
ありる。ふてこんてこれさん せいコリヤ おぞい

あつらえのどくるまとでゝ
んぐてハヤ　主体ハ天上火易ふ曰。富貴天よりト　ふところより等木のりのぶ
ひもろぎもろーえんてまぐるく
杜丹解　柳よりとあるれが。素毛ひさろ　せるる。ば
失物ハいろさよ出ろ　ぶよなんであろふと。言るん
而よあるとんえよる。あるそとるそてるそ乃。柳る
隅よるとチレトりあげてあるぶるふるア　そ
めいでうるいる。柳へあげてりんるりんでやぶるぬ
ハテ　ロるるることでや。失物ハるんでや　アるでぶるふ

ヤアくコリヤ　紆玉がつぶまよる　イヤこるこるより。
コー紆とつぶるるるぶどこのくふくる。るが柳へあり上て
おれどよ　イヤくそれでも。易のおりてよなんで
あろふと。言い而よあるぶどてア遠ひさるん。柳へで
るけるふや。暗居の上ろ。天上裏るりとさぶてんさろ
せい。菊でもるくてたくるるんであぶ
いるる。桂馬の言るあぶりとふこぶあるるる。るぶ
ところて。柳よあげてるるれめ　コリヤ

まだがさひやうもるんといろつせる「赤」身ぐ苦らくい
いとぬちぐんどこてアあくちいく「ナニ」ちるさまの
うくるひかやうと上色どやとるひよんんさぐ。
あんまり人をてうふうとよ「赤」るんでちる身を
てうらくさどろ「イヤ」てうらうとでるのけくあや。
るんぜるが「赤」ぬるとあるとぬうるく「イヤ」ぬるんとの。
コノ　ちおざ十ろうめトうくるいちやがちるきとるりてつくがろ
馬鹿
女ぐうくけへぐていろくよどあくもとまくどうくの「コレけく。
ちくくえのよくしがやぐて体ぐくく中をうけるぐてく

コリヤ　るの小使り。さきさ　ぶく　おんぢろコロる
嗅いとおりつさ。そ〜いめくまーいぞんぢ員ょ合せる
額　口ろろ　ぶとく〜ちらへ　ぞんぢろア。コリヤぞ〜ろろ
ようろの。全体きさるぬ　ちちゃア。なぜ二階へ　るを
あげておきやアがって　おきのぞるるでや。コリヤ
るんと〜ろぶようろば　けさがけうろるが居ようろ
るんぢよ。よりやこ階ょ居ようふとんもりかるんぢ。
おまちろく〜ト山内るいあちりょるるるるく〜て。こりのの板女中ふこ
ぬ〜ぢろりょあんりぶ女かぢの〜もあいてぞんぢ〜どを

りけあぐりえるよるるかけ〜ちりょりるるけてあり。引ちろさんとちるふ
ありをぢえてきちく〜りりあぢょるれしるるりくぐりづものちんぢれ
亜あぐるちりあぐれ上もさりるる亜ありりるるものれそぢの〜
いろくくょちちれ〜そ引ありちんとちるふありりどこんかものちる卒生
経元りめふていろてあるるへ人をつくふもあまりょちるるくりちめると
えへ亜ち人どもこくへるりのひ食ろりをちるとそおとのるんぢるる
ちとをしておりんとちりしてぶりふのるちのうちけ表のるをるや
より引いぢ〜ぞんぢ〜ぢろ二くりのへひきこのげちきるるとりんへるり。
亜よめ〜ぷ大ろさやろりどもがりれげけの結賃ょ
るるさぢあらぶぢょぷどひゃうもるんとちりょさ二リレ羽ぐ
巻ぐろ〜るのょちちぐひいあちりひ多いきこ〜ぢや。
ソレりちちりあぷぞ〜ょ見代ろあ亜ぷけ亜。るぐちりょりょ。

あんまり奇妙人をぐるまおありとるむゝひであらぐるよ。

ワハ〻〻〻ト打ちとゝひ出て面くらく女ぐうハ狂ひ少そちらへぶんくヨびとて。
みつくゝ四紙コロ〻ー。ぜんそくさせ。衣類ものまそあゝひゝて
無実よわゝそのゝ四りろ。ものあ安ようハるゝ〻ぜんゝるゝハふゝろハこおと
いひぜそふゝて。ゝちら先ゝぶあとハいくぐぜゝかゝまぐぞ

強欲よ喧嘩させゝハ二階うゝ

目ぐるとりあゝぬるの小夜

かゝて今涙をうちるそゆく。ほどみく大関村とらへる
いるゝ花の例よ不破の関屋の跡ありとさて。
いふゝハ笑の扉も関ふけん

ちまたや鶏卵のふゝとゝくのさと
実の糸と打越て雑巾ふゝ班女義子のお昭の彩よ
仲人きく班女が移やのあふぎとそ
さてぞ名所の要るべゝ
このさ紀小関街道の追分あゝうゝう。年の比四十
ふゝうゝの男。水縁湯の羽おゝ小猿をさゝ。かゝの
色を脊負ひ紫苞をさげるが。昭ゝう鋼をうゝ。
ひとゝふゝろゝんゝ四くゝちゝ四の男 近辺のものと「コヘ」名ハ与太兵衛

ナニトおのさ達ハ。高井どまりであらだ。いのさま。
りのそとでざぜへせう。高井どまりまち。田尾
やとりのへお出おんら。アそうとあいやごあがありよる
ナニやどめとアほかのとごろふ。そいつうつこと
ら称。急者ちやアかきこハ祝へ。そこの内へとまりや
せう。牙が名の宝箱じや。案内せごとよ。サアく
いざやうつせくトそのあもれちうまりて。高井の頭ふ
りうりの田おりやとふえこごやあるが死て
とうでやく。ぺーらふりおやふおうりふ

あらちおいみ。ゆどの一ヤア与太兵さみうせんどへかがいよ
トいろさるの出男宝箱とえんへてのうて出おとうこ一ホシ二
ほ家ぶーき三十あまりの女いで きうて
ぺーらぶりでのろち風が吹ようりまち。与太小風で
あらぶとよ。コリヤがんこ像そふみとでや。下女与太兵粮が
お出るじやあろふと。座敷へチントあけてあれよりう
あーさ。ホシニどるさもよふおとありでおざりまち。サアく
人とぶきふらふて。赤の皮あらうふお出ぐれさとでや。
コリヤたろけさるのいみ。おあおとぶりて来ろうさぶ

ちらへおしやれんうトあんなんして行くのざーなへ「コウ女中。
これてゆくことト女茶をもちまり
さいの内ハ浮家ハとき[illegible]さんさぶ。六ちりさるの子供
元がこんへるうらやぐぶ亭うとよ別もて間の稼へ。
新茶の浮家さるぶみ「イヒりか。七八年も行ろう
連合ばざりませね「そんるうあの子供元ハ誰が
子ぶ「ヲホ〜〜ト 与茶与茶へと言ハ近産の金ちゃうちの浮
家をせとしてもくぶんるどのるうそれ由へ後家の子供ハ与を与へのるる
由へト女あいさろふこまりぶとうひてふげいぶーるりのるるぶーれども
与を与へさるるーるる「近年ハ亭うとのるやぶめぶんるりるる。

そのでもくの玄妻女どのもの毎年子を産ようぶ。又
ちとしもがふよ孫をふくうくいて居ようへ。油新乃
るぶ盛るるでやト付内ト女ぜんをりち出「ナニトあるんぶる
酒ハどのでひとろかるるおれうそれハようおぜへせう
「コレおとぶ。るハ酒ちくと出して自さろせへ。着ハ何ーろ
あるるおんぶるハ「ト女ぜんまぶりのむれるうるぶありようまた
「ソレよるうるぶく。幸て子味噌で呑りかるうそ。こるふ
いとてくるまさろせハト「はうちかるてう後家さるうて「これハお廉ニーで

おごりまさとふぞうふ。ちあげ。おごりなさんます。ぞーて。ぜん。箱

湯やーーー。風呂へ。ちあーーーなさんます。ーートあいさろーーそろーそーゆーーと。おごーぜんゆされてうろう

ぐらーーー。湯へ入れまひーーるよ。ーーー女衆。よそをまごーのむ。ーーと。ーーけーーー

ゆきーーーきまかーーーーーをををーーーーーーさろづきーーものーーーーーー

コリヤ　あるさ方ゆ。ゑを無さるの巾近所でおざん
やるとろ　ナニ　ゑれい　ゑ連でゆ。コレーその内へ入りぎ
おこざろって来ようさのどや　うりこい後家巾と
きんて。おめへの巾へ泊ろうさのさ　ヲホ〳〵〳〵　あそこと
いとてゑさるトどん〳〵　泊ぶ　ちろりて。ゑ　ひろ　少八ゆ。そろ〳〵と
あそ。後家　ゑのうさ　コリヤ〳〵　酒ゆ　りのよろ　ぶよ　ゴーかぶ
ふるめ　ゆ　け　後家　ホとニ　りのおとこと
さのいと　ゑ　ぶさう　ありようさ
ませぶと　トしろてゆくと。下女がようぎ　ふとんゆち　ゑりとこ　ゑる。ちち　ゑい
ひとゑ　ゑ　ひとゑ　ゑ　ぶさて。次のざー　ゑへ　ゑ　ようこ　ゑ　少八い

ゑるこうざー　ゑへうちふーてきけば。何ゆ。次の間あてい。ゑ　ゑ　ゑ　一と
後家とひそ〳〵　ゑる　ゑ　ゑ　ゑ

ごーて、アリ〳〵何とてうむーがかぐりする。アイタヽヽ。コレ
ちゝと痒さとうてうまいさうせへ。コリヤどふゝんどや。
ちくへハ何も毒なりのうふさもろへいるんよ。ヲホヽヽ。ふあさ
ことぶのりよる。ヲホヽヽ。イヤ笑ひ所じやあるい。
ようめこいるんてやく。ヲホヽヽ。おうちの元も。
いとむーがかぐるというせるが。コリヤかぶーこそのの
あうりうこのであぐば。ソリヤどのでく。ヲノ
ヒーけ。ふあるんの子を。毎年く産うるもあそこ

るで。ふるあての外咲ひるさまおそでんそのどやが。今家の
子いおろーてちまいぢとりひらんそおろー茶
買ふて。辛子味噌の中へいまそのまごとおうらくて
おさうつさを。ちさごぶちうちがへそ。たまぐりのひ紙ふ
へけて。弁当へ出ふを。それとれおぐつせへで。
おちいがさうつせへさのどやふ。それでむーが
かぐりるのであぐば。ふるアーヤアくそんなうゝ。
おろー菓子が。呑ようどやな。アヽ。左程こそ

たゝの内がひつくりかへるようなどや。アイタ〳〵〳〵ト（はらをおさへる）

おーのきーをさつけ。小八ものきとそのり。「コウほうきんをんさん。

ゆこむたゝをかへるぐらゐ大きさせられこそ

おりゝよおろーぐさとりをのませやアがんりとそ。

そもう申稀へものゝどやアア稀へらへ「隠」のめくきん。

まろきゝゝ氣よこそ稀へ申ものゝどとおもつてゐ。

コレ三寵のものゝ居稀へらへ。のぜものゝよ毒をこのせ

やアがつゝ。アイタ〳〵〳〵コリヤちぐるそよ。ト結へ

稀出し「小八」コリヤこての後家申さそるどん。ホ

て申く

居やアがるどやナ稀へらへのの紙ぬゝ走やアゝらへ。ぬぜ

おろーぐさとりをのませ。アあいさくとく。タ〳〵〳〵。

ほほさんたやく出稀へらへ。ものまが又の紙さくぬつこト

せろちんへ申く。ほほゝ「リアくまそ稀へぞく。お申ーろく

入ゝろぐーぐ紙へのどりて

稀へぞトとゐりぐーぐ紙のかゝゝくこと。「モシぞふぞ

よち毛へのたゝゝをさとりぬさほほ「ほほ」ぞんりぞ

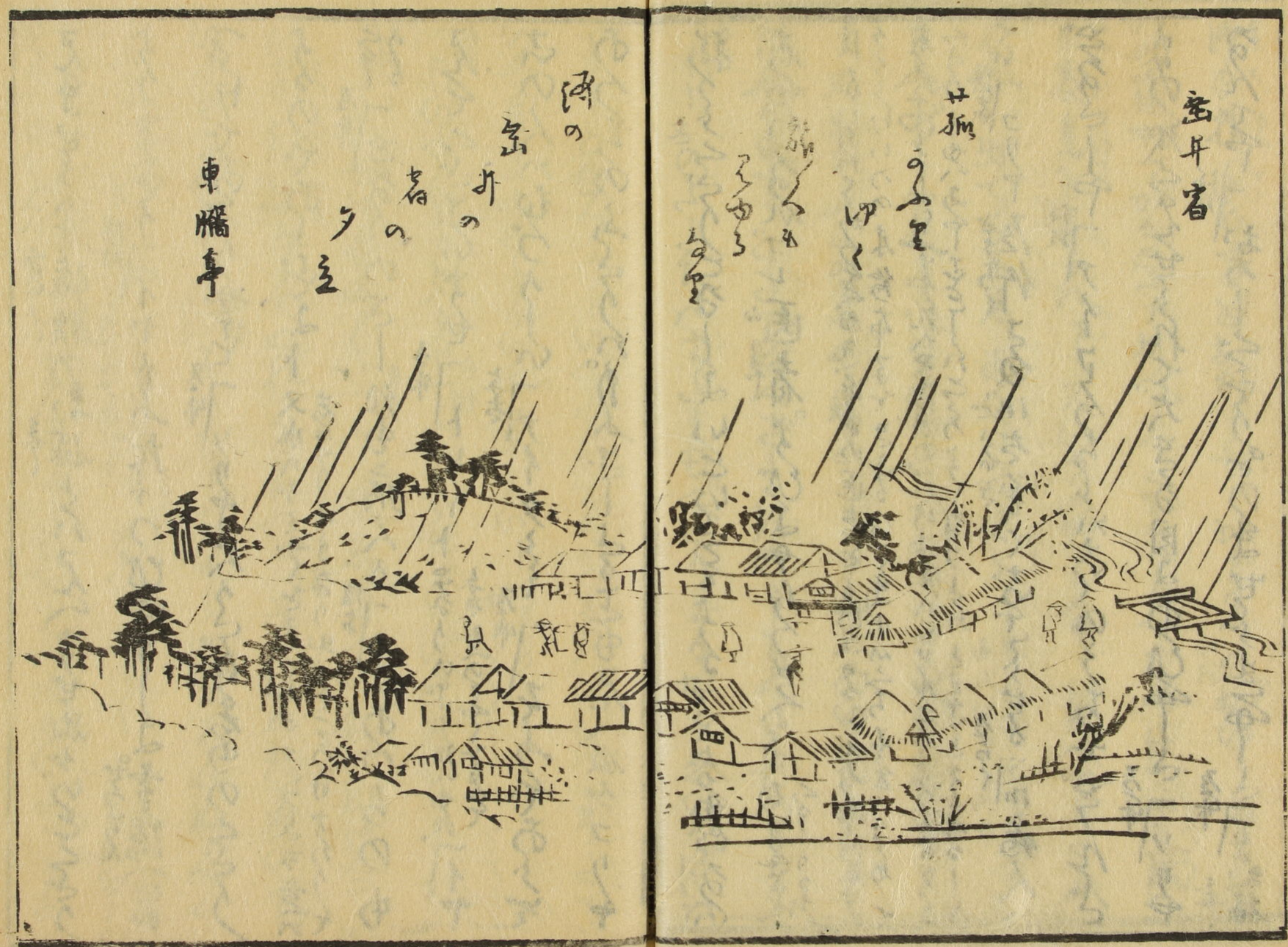
おちづゝるさろせてトさんちせ。ぬんのちくらくぞ。

ゐりこをあげよゝこのどやおぞんちせねがくのまち

がへておをのぞくるとちよりまゝ。「隠」十こゝぬゝゝが。

潜女潜女でぷとおろーやァがるとろくぐいろくおやで
のませやァがることァねへざろうきょうとうつけぐ雪屋へ
百姓糸をまるんぷァ、又いろくあやァあるく稼くぞさ八
たんぬ出てくまろおいろくくト又ろけ中てぬくと「イヤ
ものぶざうせくよくぞるんぷなんでもコリヤまを稼くぞく。
ハヤ又出そふまるうて来さ「サァ少八おいさぞいけく
ものふうまうこてァねへざーれのうちくされちふそふ
「イヤ」おのさーらハまざーもぷざうるかうあいぐぷ

稼くうぐとかーよいとこいてこうる。アハ来ぬうるい
おぬうるんぷコレ医者よびよのらうせくト「ものしりそうさ
医者ぬあいてかうそくぬき近所の医者をうびよのるとざうそくぬ八
うるうふけいいの本絵布子ときうる防ごまおんぐち来年きめて
来うべうくーくざーれへをるとぷ小八せんとくうろ来きうこ
ちうーぬハあヤまをこーいこうろくるうーくれとびざとおざるーき
てい「隠」コリヤ「百作ざ百ぷ」おざざーぬる「山病人八
ぶるざーぐヤ「ぷ」アイコうちーふハおくのうちでぷんぐど
ものぬくこをせられてだきる見よあひやーさ「ソリヤ
ぬんでヤ「隠」おろーぐまうをのまをせふまあーさ「山」お稼


雨の
ゆく
雨の
岩井の
春の
夕
東籍亭

ゑんをせう。ハテ懐後のお孫とハゑんへゆうせぬがいとこぞう
ようまちとろ。後家イヤもうだらつぴゆうゝゝ。書信（しよ
つぐけでおざりやと。乙仲ソリヤ大うこぶあるのこぞう
ようのでおゝざるよト又ホハがそあくをゑんてゆかうちちを立ての
ちをうりのざーるも病人う。後家ハイおうちのも
ゑんてこざいやせ。乙仲トレくトゆうりのざーるへゆる。イヤ
おのゝ人がむづうゝい。後家アイタゝゝ。乙仲そのでおゝざ
おうちのふうりゆぷさーるとものゑん、ぬがコリヤ

アうとむうゝいぷざりよるとるおいが減一本さて、
りうきよこざゝりのて出すりうのちうより。おりを出して。くゝへさてゝよ
おのゝく。後家アタゝゝ。乙仲よてやゝくぷいとまそうゝさ
後家アゝおあるゑんゝく。乙仲コリヤあまゝふさ。鍼がぬけんゑん。
お家。後家打扱うてくれさうせ。後家エて。行ぬるでぬいゝ
いてゝうのせぶよ。乙仲そんるゝ。ちゝゝいうたゑんぬんて
ゑんよトむりよめんとるよ。後家あのゝゝゝトゆのーを。ぬがるゝ。
ウゝこトうゝゝろへそう。乙仲ヤアコリヤ。目をまつゝうゝさ。ソレあ

あのりとぢんをうりておぢぐん「そめごいるのでや。コレノ
おとこぢあ一だんりてそこのとんやい。すイよちをさるあア
よちを無さるあア「コリヤいこやくこんどや。灸をくとぶ
ようくぶ「コレノそこの袋艾をりてこいだんやうく
ト「ちちトかぐさ「ハイくりてきようまこ「サア
鍼灸じや。ロー「をさんて居ようる。足の爪先へをくへ
さうをへ「こでやく「ヲ「アこ〜。コリヤローの
足じや「ハアおまへのじやるけトあや。彼の足へをく

ようまをう「されば雑の足がよくくびるア「そをいの
お医者さるあ。彼の病人の足やあくぶをよ「ホンニ
そふじや。そこをあんとと気がつくるんぶサくくじや
あくぶやト「ちち足ダおまをてやる。ちち足のおーのつまをよれへあをくさ
ぶきをのをで火をちけあふぎをるとふちを足へをくとをこーしをき
「ちくくツくく「ちめめこるふようくぶくく「系い
はをのてをいが。ちち仲さるぷお猿の針いぶふうをへ
あをて「ちちもぬけんよぷうくくしておこやんうい。
あまう邪ヶふもるくんじやあくぶをよ「そこれぶ

邪ケよるらまいものらぶ。第一ちよるとごでけぬ。
かうだ（乙牛）そんるう 鉄槌りてぐさんぷたくさんでかう
ぐふ（後赤）ぐめうぷうういな。ぬいてくまさうせへまし。
おぞんお医者さるぐぷ（乙牛）おぞうちうく。コリヤ ちうよ
病ひがかくそ法ねてぬけ。んどやあくぐよぷ手ま法本
ぐーてぷらぐト 又外ちうをそるぐ。それもぬけぐ。二本ぐで
病人ぐーんうぐて（後赤）ひいてもぷ手ぐうもぬけぐ。おまりのうぐさよ
ウンくトうめ元ぐるーん コリヤ（乙牛）さるぐ。ちちのおあるさるを
るのんとさうぐ。ぐへ。ちちトるぐぐまてぐとーんぐ。ちち（後赤）あいてや

あいてやぷいつぐまよりいてやうぐよ。そのくらう入用の
ものがある食慢ひとうとえ結ぐ法把。あくぐよ
杖法本と。雑法本りてぐぐひ。それでぬ元ぐうがあり
ようまちトのるぷへ（後赤）ぬるぐ。右のふくをどうそうくて出
ぐ（乙牛）ぐんのめーうんのあんぐさうあてすぐるあるを
あけ。それへめとぷひをるぐうようぐ。ぐをーー。ようぐうげんるぐうて。ぐうんと病人の
ぐてぐるのるがの針の上へめぐてちるひぐへりとあひぐうーーそうーうるて
ちるぐび（乙牛）ぐアくぐ。ぐうくうちくと病人をぐぐぐるぐぐる
トこーをかへてよちぐ法へぐてぐぐ。ちびぐちるめぐぐ。（乙牛）アアコリトどふこう
ぐぐるへるるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐる
せくるぐぐんるるーく 針ぐ抜けぐう（乙牛）ぐんてうるぐうふ

いさんでピー汁を習ふと師匠の面へぬりそめうひ
つきていたるのでおどる。サテ〳〵いざうせく〳〵と殘乃
母をひのそつれてゆく。後赤母あれそつて。そるく〳〵のとまつたそさりぐ
ゆく〳〵とぶれ〳〵小八が。あぐり色をうんそおろ〳〵さて〳〵をかくておとり〳〵ぶ。
ぶてうちあ〳〵。あぐ〳〵くのうちひとれのりしが目さあうるふかのよをこの傍
母うノ〳〵とそうがぬけて今〳〵りしゆうと。お内のさりぎ耳さ入りてふうびぶ
移〳〵れぞ　コウ　小八どのぐ母めくか　小八イヤさうぞりとよく
あつさぐのんどうそうぐしくて移〳〵れれく〳〵そふさ。
りふ何はぐろう。ナヒトは色うぐへぞちんとおうをふしてピ。日母
そ母〳〵ろぐ〳〵かりてこのピ。ちぐどちよちよふ小八イヤそれ

じゃアあんまり大声をだして道が淋しいらう「ナニ
そうふでも移くいこうもその時分からうろうろ人があるのを。
時よあうりが消さうイちうと教やせうトおをまけばうろうろ女ありて
「おうびのさんまーろ「コウ火をとりてうん移へ。そして
あの何はずの「ハイ七ッでもおざざんまぜざとトのひまそく
大をとり寄り「モシ七ッあるのあるのうちやせう。めーの
のんがうへつけるー
ちゃをとーてうんるせへ「ハイ〜〜猫いつきまでけう
やうせどもトかつをもくいぶくちふうかおき出てあをつひーとく
ちるくちちゃ下女ぜんとのちあるよざろそーふろう

ちるくーとそのくぶてさいの
ひどとちいぶるとうて
古へへてるる猿さんさろろう
おりーい童義おろーーざろう
かくて此方をくを打ちるぶ。ふくさんくーし。夜風
牙が深そうそ淋しくぷまざ性来の人ひんくざる
こそ乃紀ゐ主ぶどやの女はをとうちぶくて。七ッはるうと
いひーハハッ時分あて。世間潮りかう。只来の松風の
青のこるのう「こうハまざ七ッあやアるる移へんだらぶ。

「さんだぐのんざろ宮」くてぞ〳〵と脊中をつるぞてる
やうぶヤむろのよ火が燃るんざろう「ア」ちく〳〵ぬ
ゐるひがさる。ア〳〵さこへ〳〵おれい人をあく燒場であろう
トゝんゐる目さ光ぴか〳〵と「ア」そきこのこりん。人魂がとぶか。
そんでゐくいひとだま
ヨく〳〵さむやのく〳〵「ア」のんざろ赤ぐ抜がかうて死よ凄く
ゐうて。嶽中がゐるへて赤さト出たちあーゆるあるの「ア」ヤアく
何ゝ赤い白ゐものが出さぜ「ア」ろんく〳〵「ア」ア出畜生めが
あつさゝ肝を潰させさ。時よコリヤナとんざ夜深よ出りけさ。

さんといこてよ辻者のやうゐ西ぶんへるナレトてそいっぷく
のんでのふちつと夜明ゐおるつさゝ出りけふぶじヤア
「小八」ゐりさゐそのちやせうトおの辻者とおぶーれ出る四あん
だりりのクやーぶれの堂まちろう
ぶうーしーアをそろ〳〵とあけてそのちりりちりいてよ。ゐろーきづそのの相油をを
あきゐのてて体そおるぶ赤ぶ〳〵〳〵そんのあーおときそんぶ辻者のちよ
ちりづれさるふちりづれひとりの「コリヤ」ちく〳〵との間ハよかぶだ。
さんみひとりの男のこへ「ア」
青ゐうちのさを移ゐうふいようこのじゃ。ザアくちこへちろ
ゐさん「女」「ア」ーぶれよおそくゐぶざよ「男」「ハテ」ちく〳〵ちろぶだ。
「ア」そのぶん者ア朱塗の梯買よてゐぶざよ「女」「ア」ちう

ゥア。燒板の下敷アめてこまさろうせへ（男）ヲヽサぎゑうちゝ。
ぎゑうちゝ（トいろゝあつれてこの辻堂のかゝしアをあけてまのれど
もとよりこゝやゝこのゆゑれを命ふんのあるとも考うぎ
男）ヒヽ山さまれふぐこもちがある。おのさひとんくらいまいろ。
女）そもやよかうぎゝ。ヒヽがぬふひすぬ。ひとんと
いとまどと。みゝこゝゝまさん（男）サアくゆうんせ。まてでやくゝト
かのぐうちとむまりくこまりるぐゝ。ゑんまるよなくいちやはくそをかハ
いきところゝてぬるぐひざのちふ竹きれのありしをろゝてろのおとこのこへを
目あてまちん（男）アイヤゝゝゝ。コリヤ何ぎゑうるんでや。
と はく けを
ヒヽ何のもまどとこのるんさトいゝ女のこへを目あてよ。ゝらうのと
つゝとでふどまりの後ゆとろ

あうをとうとこゝ。女）あのうゝく。ヲヽいうんゝく。おすい
まうとこびあうりた。
るんぜヒヽの尻はちはきるのさる（男）ナニヒヽはちく
ものでアイタゝゝ。アレまんどはちはきるる（男）ヒヽ
ちくらのる。アイヤお前ヒヽをアレ又あの
あらゝく。コリヤ何ぎゑるぞ。イタゝゝ（女）ヒヽのアイヤ
トふうりかむせゝよつゝたゝれのさがるをまさ八（小八）ロハゝ（ほん）アハゝを
おんゝゝ。ゆゝ。もともとこゝくあまさ出
ト大ロゝゝひとゝひ出せべゝうゝりれのさあをつぶゝ。（小八）ハゝゝ。ロんゝ
ロうゝさんぎうゝけぜゝそのうきれこうげてゐく
教生をとるぞ。ぞりぶちうとアヒゝわざをぞ。あゝろうる

りの紙ホこいづくのうとでも。色てるのへさくら
稼へりのごな
観音のおわをとうち辻番
ふくり根本の尾くひ迷
代時とや継来の人妻しそ。助郷馬の駄乃音。
手とく言士の伏見如く元い情が浦ふくぶきの
知ものでのせうふうんさへドウく手ヤ夢があ
そくふくゼト手をひくそくれがなや糸の方とこ
くるまいぶきやとそくふくれ出んとそくふくれ

あく紙づくホ今のあくらが狼唄ておんなりのと
ちそくあの名良
コさくれていきやアがくるトつきをとくれがぢくとくれ
コリヤいくりのごきくハりくそいくうせくトてをくちいで
中仙石大頃くちの進ぶよ
いくるらヤくせのおやぐ
でくるのんでおごくつせくりホトいくぷくゆくし
やくくトちやくせくそのくとだくちやくさくいごま
出くうしホこそれよくトひくさげてきくろくしぶくしの
いごくそくひかくるとちやくの方のだく目をくくるくさぐ
これくくくておくりしがやぐくおやぐちよくさくやき
あれをんさくう見。

ようめはとでや　ヲヽ　ゑん　よるアトらでぶやぎそのイ。
ちつてきんりうしゃくまろ　モモをそのぶさ候はどこでかるろ
てゑんてめよりー　が
せへておざる　見さ　ナアこ見れ屋でひろつて来やさ
ハアその　きん　弟ゐ入ま　ろつてう　そゑさ　敷ろろち
らたのんまりたやく　宿を　ろろ　道で　辻堂へ
そのつて　夜のあける　紙ま　ろつて　居るうちぞそこへまさ
男と女とあろうづまで　来て　代　手　弟を　捨ていのやさ
かゝ　ひろつて　来るのぶ。とふぞーさろへ　ハア　合点ぶ

ひろうぶ　ソリヤアヒーの　ボの　手　弟ぶ　やふ　よんべ　昨
めふぶ　ぶあちゃ　ぶて　意外　まで　やりよろ　ろふ。
ひんまふめぶろうませぬて　ハア　そんるぶ。おめへの
ボの　息子どのが　出合で　のろる。コリヤ　おろんん　ハアひ
ぶけ　行へ　ぶちそろふ　のうや　ソレ　手　弟　かおけへー　ヤ
やヒト　ぶ　ぶちかこ　ボ　あけて　ハア　コリヤ　かぶぶけ　のふぶざる。
ハヽヽヽ　サア　出ろけや　せろトト　あぶぶぶぎて　青のぶ　ぶろ
ろのぶんの　ぶと　ぶろ　ぶろる。ぶぶぶろまさろがの

鶯坂の名のみ残る松うえな
さてのぶれる月の梢の照

木曾街道續膝栗毛四編上巻終

新潟県立図書館

續膝栗毛四編　十巻

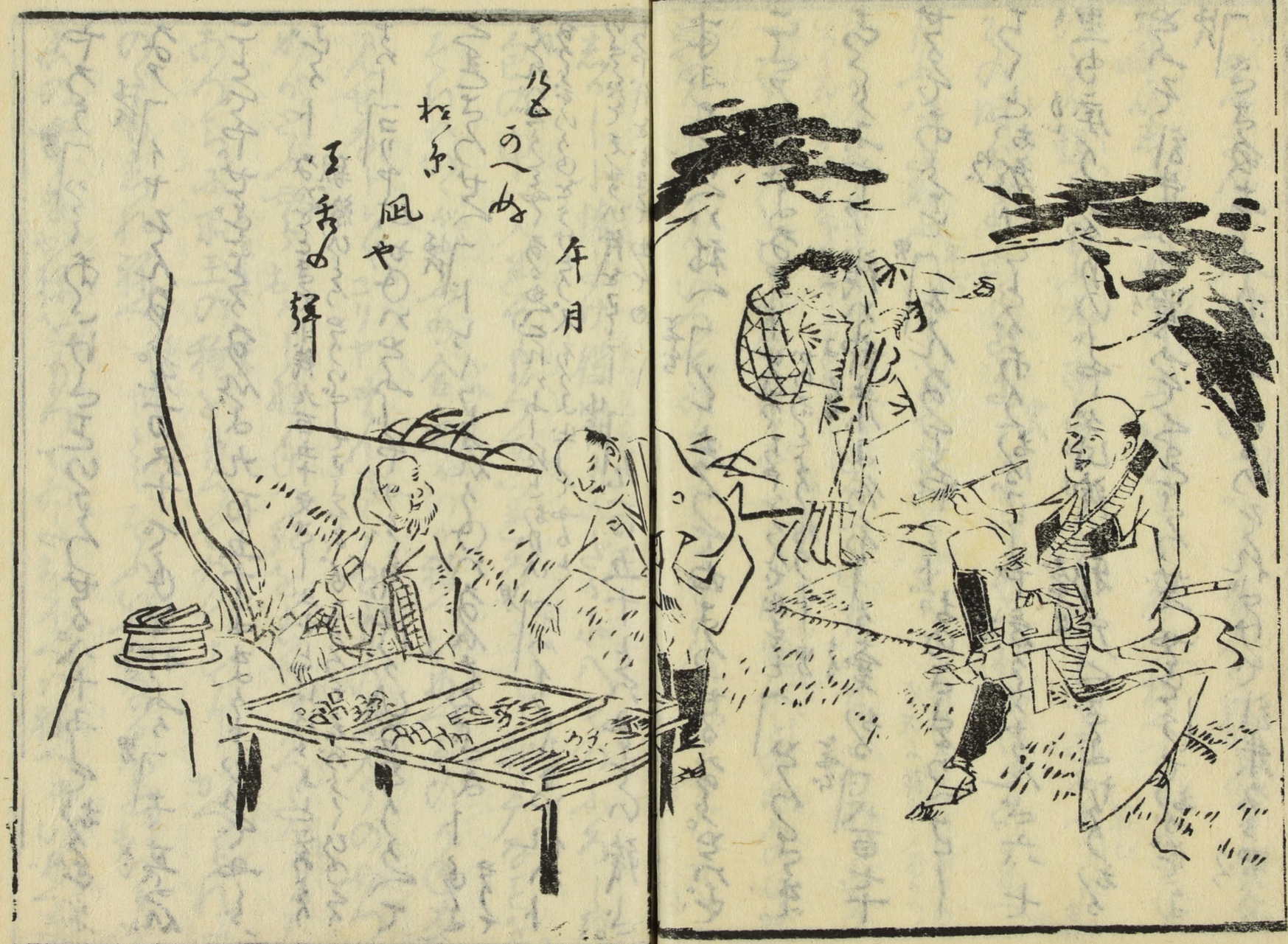
東武　十返舍一九著

おくて赤坂の宿近き松原よさーかりるふ。草鞋
子どもら声くようさいつれて旅がらすあとふるり
さるよりて木曾のおけんー右田よりに。碓井
峠よりアレ浅井沢ヤナトコサヨウイトサ。コノまんでもセイリ
成内。蓋木よりうどんそば。モシ休んでいろせます。茶ア茶つて
ツけーとる出ちゃ。屋の駄仁
おざるに上ます。アヽ高いとこるぷつぷくやくりそん

新潟県立図書館

小八 「どろさんりの何時どの」「アイ」なんど狂であらざる。
あきんあらせぬ。「エ」ちがいらが去らん様へうらさく
のごが。怪よりの九ッまとあいのあるとであろの「アイサ」
その時分でもあらざるよ「小八」「イヤ」そと所どやアあるめへ。
りの八ッどろの「あだ」「アイ」小ッでもあらざるト叶月又てのびんがらの
さうなる藏をメ者ちう
るとしのふげ所ふしてこりつけしるると「どろさるりの七ッでもあらざる
ひろくるげしる男まずくそよのとをて
「とぎ」「そ」ふでくしッでもあらざる「小八」「イヤ」叶親たどのの人のいの
とをとりふでりいってゆる。ナニ七ッなりのどうど九ッ

まふちけへ祝へ「とぎ」「ソレ」去ろそぬさろせるるるどなど
ことアるんよなアトひろちやとろんで出さと「とろさ来。
あるふやア残ハ部朱よ何のぶ〜ろ賣ある「とぎ」八百七十
せるであらざ「男」「そんるアやを」「ト」ものさとりへうヒー
ちくとお所ひことざありある。ヒーやあるんざ六七
里も戻りるりめどやが叶殺が邪ケくさなりある。
どんそ部朱ぶの買ひそくまとろせ「やとしてあらざる
「陳」きさ取きメりてゆるのそんざけで部朱ある買て


年月
なのへめ
松糸風や
玉秀の詳

やろう（男）はいはい。あこけさとをいろうせるパ十ぬてあるを
なア（婦）イヤそんなぐ九百文十でもを打ふろ（男）エヤ其ぬん
ことでやせどエとぐるんよ。九百五十ぬまくらもんでやぐ
ぐろトぬいをときて小銭九百五十文さー出をとぐはぐふところより
（婦）銭ひとつ出ていぐてもぐべもよろてあぐくひろて
やろー（男）コリヤ此かもいとふぐややくえばくひるぐろうくて
くまさろせ（婦）ドレくくるんくもいるんもぐぐトぬよ
ぬれがぐうくこやくあるやとれいあーぬとありひ（男）ハイくさいれハト
あぐふぐぬて夫ぬまひ銭を見ーて（婦）出てやると
ちやぬとおきて出てやく
九百五十とえやとい銭ぐ。

ちろー小銭ぐけ。役害ものぐが。小八そのふろー紀
ぐ包の中へ入ぬそのろて（ドハ）郭をくまろへ。
それいいぐどあの合点がいろ移へ。おめくそのろもを
入せるぐドレくコリヤまんざくみものぐ。今のやろ
めがぐどふやくおろー船やつ紀を赤ァぐくぐコリヤア
あうちふ不玉の種をもァぐくぐコリヤア
のぐも赤れ移へ（婦）ヤくくくそのいくばるるどぐちいくがぐ
さのやうるや移とぐのろてやくおぐくい移へぐいあくま

しいぶいつめかぞちのあるくいきふーァかづくト
きゆをつぶーてそとへうけ出ーふとろがのづくえれーやりげゆ
くくちゆまんへぞ居いる中あそるあそかあるエあたぞそこあくをりうそ
きーこうこるとこうり出をるゆと・ゆの内あそきうかるエあり・そちうう
あそくるるふぞぜふをうあべくふぞ孫りの人そろえべきるすあり・ほんくら
猪ゆをちくる移がぷゆれんを　ぷ　さいんいかいく業さくくーー紅。
いうくいくふいくるるるうう
ぷ　そゆめくゆそれとえ気がはぬさくぷ。あぜそのとえ
いうてくれ移へモン今の男かさざめーぷ。ぷ遠のあめざ
ろふがぷどこのあんとりあ男っざね　ぷ　ナこコーが赤り
ま世ぞそ　ぷ　イ、ヤきそ負赤くる移へさアいきくせ

移へぷのぞる近者のやうる挨拶ぶりであつさでやアア
ねへの　ぷ　イヤあんるあぞのエせるあいが猪あでよ。
別へ赤くぷて来あるのでやぷーさんぷりう
赤くぷどこさアるれる　ぷ　あけなーのものをさんざ
目ふあるるせやアがくるぷーそれもあへくの欲都くる。
さんな用ふあのぷ赤くさが移へト　ぷ　ほんくらひとりさんくる
る　ぷ　これゆ　ときのさいるんとあたらあるぷくる。
大きるふさぎ・ぷ而を赤れくとさちいうるーそ
言葉の就をば掛ふあり由ぷで

これよ猶孫ろうがせよけり

「ハヽヽ」狂言でもあるめへよ。とるとこぞいつぞ。

その紅朱でたこぞんぞうやつてやるがよい。素人

をとをたこア移へおよ「ほう」おり（がいめ（ほう）。

イヤアレヽむろふへ持をろうがでいヽ思ろが怪よ今の

ぢやア移へろ「ホヽヽ」ほこしろつ紅がよヽ細そぬる

と人へ「ほう」ちげへ。おのつぐヽトいちりヽさんよ

「ヲヤろうめがト」はるをつきそのよるとさの男びろ子

ほるるのあさま「ほう」アイタヽヽ　さきの男「コリヤ」ろうんでや。

とあり「はり」

「ほう」ほうよ行をはぶろうさせ「ほう」いふ新さそんがその人でほ

ほうとあくまのとりへるる。

「おろころくぢつこぢのあんなのせへ（ぢろげでおるくさ生へ

ろうんとのふと目の玉が赤中のろう（飛出ーピア

りそくヽトでとのひつもくわどよ拔眼川

おのこーとりろう

まるかどのるよ先非を拔眼川

ほくくハこーのろくでるん旅

ぢをおのこーをむふへおるとモを日一形さ

ぐ[陸]ぐるあらかいか。ゆきそうしていろぐどよるア[陸]ぐるい[陸]ぐ[陸]ぐ
[陸]ハテそれいろいろせどとナ。のうてられさうせへこく
だんな
且那くトふうのあとろ[必]はいのてきらる[必]いろいろ[必]移へといのふ
ちろさん[書]そんでいあらぐぶ。ピーどろく隙じやふ。
ちろ[陸]ろいろどとろぐでけんろん。どめぐ[陸]ふうて
めざろうせ[陸]ハテどさすぐ[陸]はんて来ても むぐる
んるしぶ。のうさーても[必]殘が移へろ[書]ろ[書]ぐんよ
ちくらくぐどいろいろせる。よとーへゆんざとろうが

まけるふて。墓ろぐ[うへと]や。それよるア。さんそくれ
さうせへさるるそが米が百ろ一斗せるし。殘かゆきし。
弦[きよーき]ろ[必]コレくそんろんるよなるべさそ[必]はんて
来ても。出来移へ[そうぐん]おぢぐ。めるけうせへ[必]ー[書]みへぐ
すぐ。百六十ぐれさうせへ[陸]とんざとをいふぐさるうさし
[だ]ぐ。めるうさ里も[陸]はいて来さろうろう。美江ちい
ぐイそそろんへるハ[書]そんなうーー郷[ぐど]戸ゆぐ。沙百へ
ぐろぐろ[陸]百六十ろるのうそもやろふ[書]へ[書]ぐ

江戸川
原
秋の

武蔵

うんてやらぞよのうていざさうせ　なとまつけるう。
さてさるそふいつても　ぜるがさくまあるう　そそそのそ
ぶいざうつせ　ぜるかりてやらぞよト　はいみへトの入口
ぜるの小家よ　ぞふでや。たそうう兵かるう。ぞう戸　まぜ
尺棒いくまんうトおりてそうこへをうくれたこれも　いりそ
いうどいんま服ひる。ちくとまつてくれさうせ
且那いうぶくさうせやう　そんなうそれやく
さうせ　さうく　たそう兵やそうまいうぞ。

ふいうそいやりかうそ　よふこひる。ぞいうぞん
ぞいざうせ　麦服でや。あうとふんぞふ
そいうんといつきふ　狐が居りあ。コリヤ
だんだあどのかふいうたんそまさうせ
そは男の且那がかうそこざうつせる。ぞんぞや
ぞふでや　コリヤ　行棒よいうぞこそいうぞ。ぞよ
でけりのぞでけて。あるたるとがでけぬくんが。
それでもよくばう　ふ　なんのこんさ。駕

鼻がある。かを移へしやア時まら移へ「そん
なりや。そのりの絵破をしこのかぢと又はしこの
のぞき「どふでや福ぜ。おが身仏戸ゑて斤撞りの
まんら「いらぢく。いんま服ふていらぢ「ち、又
服ら。ごりやア。ん「ぢやふ移へ。ぢふ。ぢ。ふ。ちよふ
「ゆせ「ゆやそんなりやふ。ふ。ぢふ。ぢふいらぢく
「ぢふ「ふくせ。ぢ。ぢ。ぢ

イヤ　ぞんじとき中こてのりまくかろ〻のり
ぬ〻んこてアちゞひいろうくどぞ。きんぞうして
のうていざうこせ〻ー　おんうへんうなる
目まあぶどふぞもうこと〻ふ稼へようおやうこてこ
せへト　ぞようちのれべぞそうれのこまざれぞうかあくゞびうこの
ようれべげこひーとしてはは　大きこのりごろうこるく
きりを　コリ　アア　あぶ稼へ　ぞる　ぞきみのこうん　ソレく
りうとあうちくようて。左の言ふうこがあし
ふんげけてあるくぐのぞ。それで組合がようまうこ

ソレ左がこるかくぞ　ヤ　ぞきサ　ぞやうちじや
ト　ぞんあーのうこようけようこそれば左の比形ろくゞみド
きのーのくさいよくひくそのうりうどハようこうこをーとこうり
るコ　コリアくぞふこるくぞ。おんこちそふこ
ヤ　おちくふまこのうせへます　イヤこのうこそう
も。稼へ　ぞうこ　ぞきむこのぐこの中かこうりと　おうこ
かちそ六きこ　こーのおのこちち　おうこ
あうこくぞ。ぞ　コリヤうねふぞこうこふかり
ぞ是をこうきんぞうふ　ちやアがうこなぞこんる
びうこめふうぐこてぞ。おうこと　ちやアがんこ

猿松めが「せどどぶるりんぽどぞぶうつせくち
「腰」ぶうさぶーやア移へぴうてくてるう移へぴうへ
ぶんぷうぶ トたたたたちちぎれはおとがうの「コリヤ
あがらをつきしことをせがよろくくこ
ぶふさうせる トつろをつくとつきさをーいきづくをとろてくくい
せるとざれがうのびつぷぷうきとるうて。ぷちち
ぷうるをぶハとろてつれとだこて。そのうちあとがうの蛙ちぶほたぐよ
ちさうぶうれてぷーこをれ。ウしくくとうあれぶーてがうのりくぶも
ちぶどうけこおりうるしむてんよ。おうう近ぶのぷのども。おひ
ぶひうけのろちり。ほたたくとうう。ぶうくて。ゆ。ぶひのちぶちとうひたち
をくよ。どものりうるれ「コリヤをまんぷぞく。お梅よ
ぶひぶくセスきまいきう中
大きる怪我を出うかふさ「ぶべうがうぬうせ。

うぬぶが満足でも移へるう紙ちゃアがうて。
ぶるうれのことるぶじんぷのぜもうがつれをもうこ
ぶこ「腰」ぶいうもあだと「骨を見ーもうこをふる
あいさくくトコどぶとうれをもうあてりさがるてんうり。
ぶハいくふくくく

下
ぬ
河
の
南

移ぢかれがぱけといろくとろりのひてがゆく代よ「見の
るんアまうひとろ出してやうやくいさとさければ
ごるさもおせろでござんやさ。サアくゆハ
んあくいろふト「コレサ小八もせうやさそよ
うけいごさそ海ごろ。
そんるよあげごとこさャ移く「イヤサたやく
未さろせ。逆出さふハ沢がるト「やうくしたハてもさをりさるとと
「小八るんのろさ。又沙朱ひとろ呉ふれて。おめく、
ろどうでやくる今ぶあるろ。るんの学移くでもい
かるよのつさろのエごだろくくん「侯ハくくく

あのふがぬろろ移く「侯紙ふさろ。膏薬代ふ
ちつさ武朱きさろつきの網係。それごろむせに
かけ出さのごかごふして即席ようろるんが
出るあふ。ハくくし。念のさあ改てんあうト「ふところの金を出ん
ひとろくあやくんれば「ちたかのそうえくくれのろそあり「侯ハ十ハくく。おいんくそ
はくまろ移く網係ごとおりろて出さてやつさ
かのかぱごろろ「侯ハとうのろ係であつさそので。
おいよ網係めが殊つそけつるぷあくすい。

駕の内こうけ蔦する怪我よりも
只とてもきさるる式朱きいさごと
ゆくては乃遠ひよいとで乗もあさぢつぷらくと
糸ぬれ柚木川を打る。郷戸のにさーふさーかりー
ぱっぷんや西の山の端よ日影傾き。おのづから道
西くんも見だやるるよ。もこ迄て殺さりハまろくと
たどる跡ろ〻浪人めれるふりづきぴづきも
賢蝿ぶうくとて。眼ざーきよ級つれ。牙ふ〻
乃ん〻べ〻りのくあうづれるとりたり。柄糸物
大小をさーーぷ〻人ハ鉄の鋼金入る大紹兵ちこ
ぷんぷーの色を資負ホるが。鋼をかけて「ライく
きさるぬ〻ちハ乃どりのぶ拉。ぷらもづ〻くよどう
ぜんぶさるーながら西くべん。侍るさろ「ハイ
あれさぶ〻も乃どり稲一ナニ江戸近迄ぶぷおつちの
ゆうへハ法〻出ーをぷるるとぶるふ稲くコりけ。
ひさーーいろ稲人ぷきさぬさちハ何ろ。侍勢糸

宮ゝ俱ゝに商ひ用で旅行ゝ。高賣に何をさろ
ある「イエ」りの高賣ゝ高賣ゝ高賣ゝ。ゆ燒の
とゝりの風俳ゝ。ゝ。ゝ。

おつぶ。あんどん。拍子木。なりもの。合羽や
六十だい持てある。青野ぶ系で。多い
間よりろくぶつ。けとりや。たい肩骨。
大げさ。やり。りんさ。おめしもつさ。存の外
りつさんは逃出。けつ。りつ。ぐんくまこんらーな。
りんさんぞーそも大津の住。りつ。月のそ。
おつさのどやト伺のあんまよりあく。大ごべあげ。この大臣。小八ハ
うそきさ。りつ。ごと。六ひりんなりのと。ごづれよ
りのどもぐ。ちゆれはとと。ぐ。りしぐ。ぐ。ぐ。

むすめひとりがくらされどもきものうつくしき
ようすをさんせどとがさくゆるひのごとく
正直愚夫ごろ拍。ごろちらもの泥坊こそまやーせぬが。
年中旅をあるひて。心の中でもよる夜中。独で
あるれもそうと。ふとんとりとれ移りうつりまり
やせんが。中ふハえどめて旅をさるも食さ。あめく
がさのいふもうるさ沢いろてきうせ。さそ。おそ
がるでござりやせう。ろちちらいとんるふ堅帝ま。
桂かよんへても。殺生ハ滅法流のゆるーとろろ男。
ごとうの時ハ百人でも千人でも。造紙へ移へそこく
いろらやア大風ゆりのさ。浪人イヤきさま
ゑれ。せる男ど。今夜ハ同宿してたるそふ。エて
コレサ。ふをいさんおそくゆるのりと急ぎ。せ。浪へ
ほ。まの人ハ。大分ちいを氣まひゆるやうもそざ。ナア
たりの志まてさきさるゆとちのよふ拍りのよ。月をかける
りのか。隔心ゆーよ同宿さうまん。加納ハ糟田やゞ
ようろうそとへいろまよとまうろまん。コレ付吉。

ささ屋の今のこい紙。塩梅よくやつて。跡ゑ〜糟田屋へ
来さうな者。使ヲツト。おやまちく〜ト。何やら張合の
ひとりあとへさがるとかめ屋人かあるよう打つれそちやくよ。ほたい
今の何とぞーしてばらうみんをまちうんとありひいろく〜くふうさらぐ
さうぐさんとまるまでくらうみんりめつれまちひてどやかくまる
うちち。おりるすのの者くまいるとあるくいのさこやりう。
女 おりさまりしやござりませぬう。おまちあく
仲人 イヤ。ドッたる松。糟田やへ申くのぎ。女 のさやか
さうまでおざりまるまよ。仲人 ホンニさうぎく。サアく
少人 さいうつまやま。イヤとうちゃ。りつとさへへ
りつて酒りヤ。ハウ。ほたさん。仲人 ゆうさ屋そふう
女 モシイナ。おつまさ屋へ酒ろうとおへ者るホサアく
お出さんうく〜ト。ふりさむりて。出かけよふ。お酒で
ござりまるさ。コリヤく〜おうあ。おくの六畳ぶようぶ
女 サア。こちイお出さいうト。あんまりてちくつまを
ほくまふりうもだんそこまく
ほ人 コリヤ女中。おぎひとり。沼ろう来おれ元を
女 けて下さん。ハイく〜おむひでも出しませぬ
仲人 イヤく〜あくの内へさーて来る。ぎ。女 ぎふ

お風呂へおあしをさりまして、サアをさるねとち
湯さどのよど、ちづくあるさ、ドリヤおそろへ
ちんろくりー、ろくゆへ、コリヤちんざのと桐宿
しざおあり、後くも移へぞんのたんせべいくとふ、
ちめ、ちんなさあろよ、相めふあつふうつけてまれさ
ん。ヂヤ今夜ちようつぴらんうつうと移ろまて
ちを移へぜ、なんのめまうとあるものざちまも
そかいちちんくがあんくよ弱をんせてつまる

ものうざとへ、濃子の庚ざろうか。ろろ、ろ、ろ、ろ、ろ、
ろちちちくくさてくめんの後人。何も姫見へ移へ
ろる、そんざろうて、氣味のろうんートんるーちちの
あざり、ツアざろうせへろんい湯ざるトちろうろうもの
ホて、ちうてよう、稽も出て、ちくくー、ナニトさるもの実ぞ、ろろ
ちまひざひまれくろろて、ろへ入ちろうよ。
移へ身の上ざといんまこさが。幸ねめとく。D出ち。
とのたて形しものの、おぜ、ざぶ。よん、雞子のくちが
あるざろざろくいく氣が移へ、ハイろちちとが

やうなものでもめく（侍人）ヲ〜サさまのえんまいそ。服
つれがきよう様〜〜てどふ小盗でもまそふな新
つれ。赤まのりいざごめてて酒のるのるぞろう（侍）こ
酒ハ大好物でおざりやをと（侍人）ソリヤちいとぞまんろ
酒も酔て寝るやうじやアけまら様へ。呑ハ表
性骨がふとゝるつてせうくハ酒乳でもつよで
ねさでもとるやうな酒ぞと。云分き様へさ（侍）これは
ちう様ハしやせば（侍人）それハいよくまのりい

おりんとふハ小気ものとふ人おが。それで膳立が
ふとくて横座ものでと人を糸乳ともちぬやうを
氣性ぞと直ぐおぢが出ぬるるまみア（侍）ソリヤア
そんざお好をぞされかるすんでござりやを（侍人）まれさ
こと。どろろう毒ぞ（侍）ヲ〜ヲ座そそ。どろうも様へ
ろうちふそん形るものハ婦ひでござりやをトイヤ
せんそく座まて見れる侍人。（侍人）ヤレくやうと易おろうまつさ。
めつれ。体吉きろうて
報ろさいんき来おりまーさ。コリヤ（侍）ちまんぐさまやう

の川ちと
夾の
の世い
清ら
馬
月ヶ呂

おさく　せんさと　あのさうのうち、伊吉が居をもちあるとやぐら
ちまちひうるところでいしもあかしをしゝあるて
「さておきのどくみるものがでけ　ありまする。明日みる。
どるとさうもけんあうたらつせるとぐでけませぬ。今夜
みる　番宿　とまる　せんさも　旅人ども。一統よ　同盟うう
御法のあるまでかあひとりでもとせまさてはと。
彼れ　来ありまする　「ヤ　そりやとしてく
「イヤ　宵のうち。此さたの松原でみる。金をとれさ
人がありまする。そのとりあるさやう。番宿の
うちへ　潜つて　おりぐとと。旅籠や中者　彩く。浴衣
表　ありまする　ものでみる。その　瀬　あるまでへ　旅人
がひとりもとつ　せるとぐでけ　ありませぬ　「エヽ
それどゝのエどゝ　御法さんコリヤどふとる　「ナニどの
とるとこでどちとそんないさくのあるものどや
みー。何時立ても　撫ひそふもなるものどうそのる。
今うとぐよ　出立　表よふ　「ソリヤ　みる　まいく。
ハテあるとかとうぐとうて　そんなとのあるとぐ

ことわざが多くもおもうちゝてあるるでや。お芋が
のけゝかやがんとおそぐのゝゝぞふみア。
おちつゝうせへておさゝせへます。トいひそくかりそへ
もくゝ使吉ふところ
ようゝうるおもめんじまの
紙布をしてくんをうみ
ゝ。恐るゝいんまのえ拵しれ
ゝ。出来ゝ。コレえんをゝうせへ。今とその
高片主からつゝえけるのぞおとの宿ゝゝ持けて来さ
旅人どゝ男ゝ夫付てゝうせゝ紙布。コリヤまつゝと
あゝぞゝ。ト紙布をひろくすめのあて引て
ゝとゝろへ入れるゝとゝ

ゝうちへ今まで御めへがゝ。戦法をいひのきゝと
ありつてゝるゝぞ。ゝんゝゝまゝゝよゝあゝゝゝこゝそんな
高慢をゝるのゝへぞれゝどやア今宵お宿ゝ
泊めんゝるせへ。今とその内へ断て座敷を別よして
ゝゝひやせう。ゝゝゝ。世話をゝとをいふゝとゝざ。
どのゝうゝ拵とぶあつゝさとて。道連のきゝ女ゝちふ。
雑煮をゝけるゝうゝ拵ゝゝでもるん。ゝゝしてを主を
大つてきゝ女がゝ屋別をゝうゝふといふとゝゝがゝ

こちひとつで。俺よりさぶろうとむこうとおまつてゐる。
アア何のふーろぶんまりでんて居さろせ。さうとも
素人といふものの。小新なものざ。糸をひせごと。
酒でもいつぱい呑むどやアア稼へ。小八仕事する酒も
喉へかはきりやせぬ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。
子よ細合のん氣の弱ひ工をいふがまつぶとりあ。
稼さろ志ぬいぶふーて豆が稼ろまつ新ものでも。
のんざろうとらうアアの石のうへよ。ちさろうて居る

ちさでつ。ものも蔵ちつれ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。ちさ。
おろうげのさろます。お床まつ死ちせむぞよト夜
のこをさろ口くとらうんものあろうものまろげ。小八ナニト
稼るようさ今〜言るいびき。ほにほハハ稼ろものからだ
泳ぎさんんのせへのぶとんあつろどやアねくらアノ
ごうせへる鼾か。ホニ。とんざめよあのぶんん
あんつろがあんのふいんろうも。一所よ来さとろう
のんざろうぶ死ぞへよあつちやアけまろ稼ぶつを
ことぶおろアムろうこの内をぬけて出よあろ。小八あ

出さるのぞ。おいらめら。さぶ（迫よ）「イヤ（まだ）
迫出さる。ぶんつけられさるぞ。どうもうのぐうさん
ぐらくおれまして。結句疑ひを受るやうなのぶ
「それもそのはず。全体ほんさんおれ（が）
賊
ぶりんをうて。ちらぐ。和（ぶんみこまつさる
和（ト）ちらわ。ちらわ。ぶ和めのぐ「モシイ。お客さま。同金の
まそのる。丙（下女）ちらまる
殺人さるぐぐ。せ人まる。トのひまそうけ
ぐ。ちらぐ。男さるまるそ。又六人づまらまう「ハリ
ぶ和まらまるぐ

ふさぶ。コレハ。ぶまら。和（ト）うろうろ。ぶぐのうそ。ぶ
あるとぶぐ。ぶ。ふまるよ。ぶうろ。ぶ
ぐさ入いい。ぶ。ぶ。ぶ

行掃ふてやうくお出
先生おんひさーしうぶで。
家へお出さと先ん刻伺ひ吉どの、おまつせでおやち
ー。早速お易ナを皆。車多でかれさおそおり
さ。先ほど堅勝でおめでとんとでやト
とも。それくよあいさうし。ことの外
おまひりてるさそのよふなこと
んさうきの金紙とろうさどろう。外てつま
りやさとろ
そふでやく
いづれも
うさんなかれと道連まるつてう。例の巳ん

晒蔵で何でもいやかうしてゝ感ふとおりつて。伺吉の
ことも。護ナの戻り。追剥でのるとかよ驚く驚を
おろけて来よ所が。滅ふうけて氣ひがるやう。
所でさつの小亭が什さ死の松原で金をさ〳〵と
ものがあるといそ至ことをさいとおそれのおいとが
業のやうよりうさ。そ至ものるれおとりがうで。
そんざおりー移いことでざざうさ。パ〳〵モ
旅人の金紙所て来おつうとのそでお用ふかけう

財布の性体はこれでく〜トのぜんのさいふをふことまろ
おぼくめし　ふ〜ん　ハ〜〜〜とんで由稼へぞんの〜〜皆お酒蔵
より出し　ふるひ出し　くんさこる
かへ　ぢんのこうの肥えうと大きよ公きんしさ　こうきこう
稼へ　コノお客さまわるみアプローもまうこなしてあつさが。
りんまきけが茶方南西へおざ〜せて。親御をおしへ
さうせへさ。先生さまおやとこんでめておやうち
去りおりさそれでなアこれ先生さまの方子
さちこんみ近所の元でプローが所よ泊つておざ〜

出ると吹つ出して。ぐ稼てぞんへさうせさのでござう
おるとトのさいのさるし。けらう人りめ稼よ仙合ぬ。ぢんざ〜ゆうぐん
りのふて。ろれいきやれとこいひろろ。さのゆうるうとぐ
いろうてきふて。ほ〜ど八といろ。ろ。けれ。さ〜ゆうとろろて
きてん大ろ。ひとろ〜ろ。ろ。けれ内ぢん〜ろう。先王へちそうう
云分垂しとろんへ。かつてきりさんさろるをりちきさろ。ゆうて。ほ
りりとろり。さへつおさへつるでろ〜ろ〜ぢ〜ろ。ひざめく
あそ。さ死本どろう。ゆ庵の石人の下へたひてきろれぬさろ〜。ささハ
ぢさうこだとさて。何ともぐぞんゆうぐ。ゆうきんいろふと家の下おく
ふろ〜ぞのびぬさろ〜ぐ。そろ〜ぐ。たひ出ふとさる所へ下女さろる
だちをけふりちるぐと。ろんぐいとろをりりぐりしぎさんぐぞんの
下ろうぬつと。首をさ〜出〜ろるをんで。きりをつぐ〜。さろるだちも
そをへ。ろうり出〜。どろっとりひてざ〜ぢへろげそをろふをろ〜おと
ろき　コリヤ　何とさ〜そよ。でゆ〜〜ト　ろそ〜ろってさろぢれ
ども。兵日ろ〜とふろ

そのねもおつぞ。ものも　コリヤ大くさ　雑ぞよおどさんさ
いりれぬ　ぜうさ
りのでおろう。ホニ　ろくちの侍さの男ハ。どさく
いつさ　ト　ざーれを　モシ　ごろちの
ろくとおつくろく出　侍さの男ハ　いろちく　糸ろ　せぬろ　ハて　イエ　さつ
ちイかろく　さろせく　ぞ　ハテ　とあーさ　ぞ　ぶハ
ささハ　どろく　いつさ　ぶハ　ヤアイ　ト　ちちちよびろ　べがちろるろこおて
ヲイ　どどく　てどよく　ト　ちちやろ　こんぐさるもへ
ほけろとろうろんの　ここよるる　居るく
下さろーのぞさ

出ろうも　ぞ　ぞ　ぞ

なんぞそこへふんどしもせずにゃくるんふ。
床の下へとけさそふでおぬそきて。平情なんどりふ
ゆるさくてもさもくてなる。孫へぼたさんどのかそ
おめへ後生ざどうてまそくまを孫へくさとりふ。
ナニこうのあれさ。まめへのあうちらんどこ。まそこ
あまへ小あうさが孫へすさむくトかけあがりざ孫へ
こうくやあうまそよさりめをきて。ぢたうがくふるうてゆるぼたうこん
かのこ人すめうこうるおあれあそこがうけとうくこるおせがきこ八
ナこうあそこうこうおちつ孫こるがさるあそあるあそこ
あんのこへあけうくこん。こうもめをせーとくやしくおまうんをよ少たう

「コリヤア」「はてさて」「狐く」「見るあつて。」「去迎いう」「随い
おひとぶ」

定九郎とおもひ人なさもあつて
様の去るやうれハ九左衛
門ハ大口ふしとるのうさ「ふ」「是」「ようス」「酒」「こうと」「ー」
夜もふ「ケ」「ケ」「ケ」

どこへいたあるでや（少八）「イヤその中庭の掾の下の
とつとれくのわうへぢさるぬぐろんでやうひてへ
（男）「ヤアノ家の下へうる（少八）「そのさそこへ立てなさあが
あるうう（男）「ヤアくとひあうもるんぱ〳〵あそこうるへ
何のとおろせへまうこ（少八）ふんぞーをとられてなさ（男）「コリヤどふでやかうろこ亟くとられてごろうせへまうこ。
（ところん）書預るのくそこうてるありあるよ。掾の下へあろ
しよごぞうせへてぱあてなさうせへさめんでおくだ。

（少八）「ナニ猫じやアあるめへ。掾の下へうれよあくあぐ
（男）「ハ〳〵しまめへも。（しまう）脂油で（ふしめ）メうあうるあんぞーを
そんるのよあがるこうアあ移へだろくくん（男）「イヤそれでも
るけくふやロ不自由であうだぞるアぞーとうて
（ろうてもくぬけ月ちやどんをのちまるよ。ろるくるびてちくくちろさいちう。）
ぞあのげちせどーとう
かの下男まつくろるようどれー
ぬけうけ。保あろだへ次のるよりぬうとさー出せばくるくきもを
（ガ）「コリヤくくるんぞ（れ）ぞくくエてきて移へ渡ぞくく
（ガ）「ハイおあさるのるんぞーんぞーんぱをでやくぱーぱーキ

樽で中庭へぴつうけて来ありかゝて氣の
きう移へぞつとりつて〻直ぐ仕ぶけるそのあんどへ
くりはけておおさめのがあるドレくヤアるいハコリヤ
ぐあーくゝ袋なのふをくりつけてあるこのぐ金沙分。
むをびつけておおさろふ。褌ちくゝ由移へがその食ぐ
おくさふ。百半てそうて来て茶つさめのおくちヤア
はきふ移へだくさむをびめがとけてぐちとさめで
あろうゝ袋なのふをいふ。ソリヤきのふ母めくゝ此沙分を
新つてくまろとおいゝぐ取へ新さぐヤア移へろ刺ニ
そふぐつけさつたりとをそれさゝで今の賀殘百文
くまさろせ〻ます。半ゝ刺ぐ移ぐくとんぐありふ
あろくいめへます

おくさ孤をゆくふんとよ賀殘の
百由形孤としてやられくり
ゆくてこ形くふ時をとをとうくんぐはとこうを
くち出んとしける時。銭ふ為ふり半ゝ多ゆへ。為

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今年八三冊の仕りふ不年移出来しあれど
作者古文も上板し校合延引とかく遅
先此二冊五巻しゃれ五編近日出来いたす

本曾街道續膝栗毛四編下之巻終

新宮文庫

續膝栗毛叙

友古乃梅丹来ふくゝ毛ぶ。

亦曾人来ふ慣ゝ毛ぶ。

同年遊重ゝ毛の洋本曾川の

流まゝ倶ゝ耳丹ゝ来工移ゝ毛

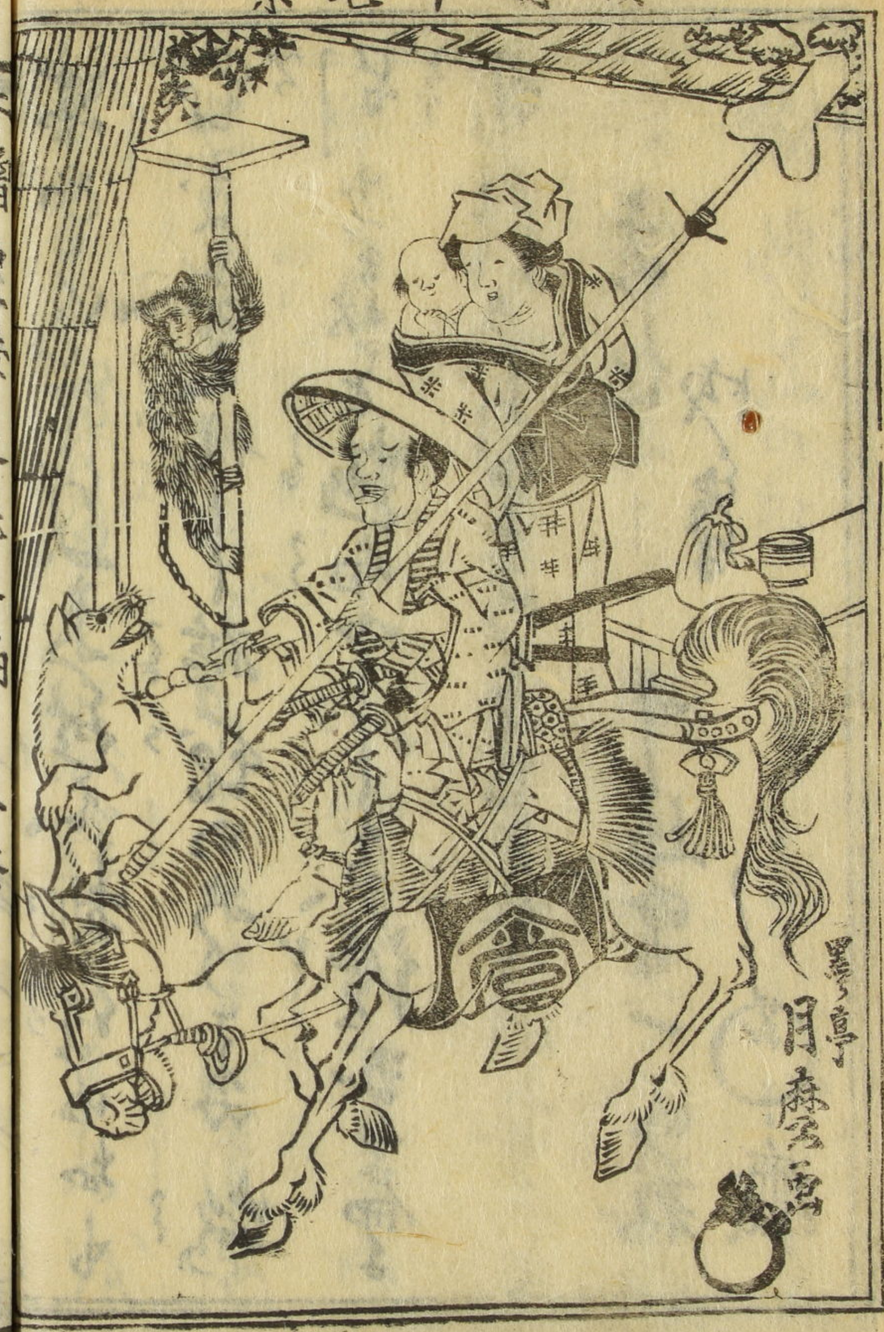
順ゝ ゝ い ゝ も高山迷丹乃岩ゝ奇

物産のたのしむ事、風雅を
此国の土人上古の
美風のうしなはざる言語部の雪
異なる事なれども又雅言のある事を
共の結果も其中山道を
そなへし岩角御嶽驛なる事

本曾路やり水あふれ、柳淀めるも
也水長代し碓氷のあさ毋
別荘を趣向する繰手の
那佐なるまつ

文化
戊寅

十遍舎一九記



木曾街道 續膝栗毛五編 上卷

東都 十返舍一九著

連哥師の牡丹花ハ。牛の角ハ金銀の箔ふだをて。紅井の引綱をはけ。心のおよぶ所ハ。ふまのうを紙。天晴の出ぶ〜顔あて。見を奇妙奇妙と拍ひ〜けん。今時そんな。まりう書紙せどとこ。着のをきく〜ます。馬ふなりと。駕ふなりと。飛ぶして。ゆきこい所人ハ。たのしみ。旅行そどゆり〜ろきものハ。

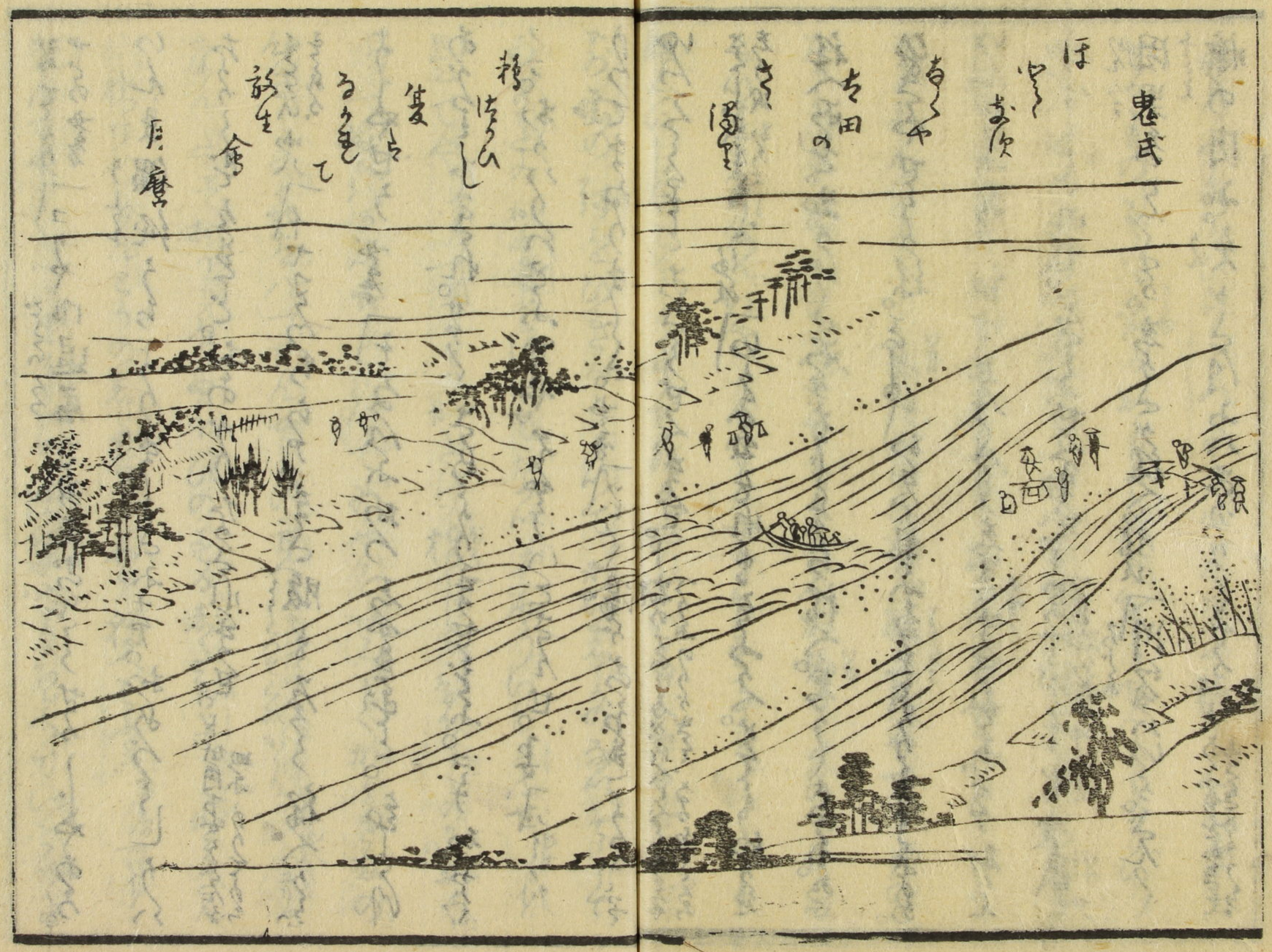
かの漢土の七賢。藪ふかくまそ。月の晩ふ。掛聚の
難ハ通るくとも。三仏の隻牧ふせめらくくく
みハ墻へがくるぐきふ。それも苦ハ樂の基。楽は
憂めのふくくくまで。年寿て月待日待の茶飯
喰倒を。噺の種ふハ色ふくめるく。さまてば
孫沈弄多人去多ハのふくくハ。中仙石加納の新に
酒やくく時。同宿せくく浪人めの社悪酒落ふ生肝
どとられるが。たくふ大盃ひとりて。和のるる
までも打混て。酒汲かハくて居くりるふ西の
刻ばくるくる。大風強出て車軸ふるぐ。漸く
雨の降る頃。空晴かくるくるふくくびてそくく
ふ支度し。出るけんくる時。又俄ふ降いぐくく
こぼくぐく。風強ふくくげくく大石ハ園数ふひと
しくなり。屋の下茅紙ふひくき枯木をもふ
くるるるどの茅葺るまハ。なるくく出るゆくくまで
めくの産業ふかくくなるくて 終 ナニトキくくハ。コリヤア

はまちうけ待ん。のふちろと又人合せよりあり。此人「今ふやもむさ
ろふ。何か此面どやア出るぞ。出るぞ出るぞ」と待ての
の用待ちなさいまちなさいまちなさいま

ろうものどうらいろう。同者「コリヤ/ア そうぞんぢ。あんまさてち
も出来べんたろう。コリーどもを/ア。同者ふいどぐんサカく
出来ものさろ〳〵ト ものかいてあるもの出来ありて「これハ/こゝの祖
かてどろて。いざおざろうせどもとおめふてろ。まんざ川ハ
あつの出来じゃ。ゆろくろうとおざろ〳〵だんませや「十二ちろ
ひけろ川がとまろ〳〵こゝて。きろいこゝアありやをめん。
ろう「イン子 かぞぐんろうでや。はさきの浦ハろいろうアア
輪川とつふ川の堤ぐ出来ありまして。番場川の
橋ぐ おちて方。あそこなて変なて。ぢろと あぐふん
どくに出ろうて。まろ。ぢろ 往来ぐでけぬくいと中まろ。
さろのふ方せべナ。コリーどもが ろうぐ。おろくあ中て
お家代でも。ア 清ぐ。おどいこゝふ おぢ〳〵めし
まろせろうぐナ。ちろこでや 寅利。そろのいろちくろくゆて。
あんきとあ家代ぐ紙。おろめ中をこハろうべふア。
ちんであらろと。ちろふちろこれ。川 角ひふもち。おぢ
ぎでろうぐどお 張人ハ。ひとりもおざろうせんどや

あらふ。あぶひけよへ〳〵。いんまふ絨してござ〳〵
せろまの。その元がありて紙とと〳〵せへ〳〵ナア。いろ
きふ紙とごろておざ〳〵せへませ。一はてふ おもさ
とて。ごろうへあ〳〵まつふ。ゲテ あまとうとせて
ナア。ろうろうとと息はきてるが。絨毯やせるものの
なうひであ〳〵ぶふ。そそもさへおるるものでけぬ
くひをろうつ。いざろせとやりゆをるが。いくて
ぬくいしやおざうませぬ。ゆどいるるいやませぬ。ナア

ゆへくくとあさうせへませ。ト宿のてのしあがけくらんこあるを
ちうしゆ。ちうしゆ。ト後「いうるそれもそのうへ。どそよ。いうる
後へあを。出うけこあがまでまら後へ。ちうう。今ナア。あが
ひきやせちうう後。ちう。「あ〳〵新ふるるちうまへくるあ。
いんまうふあが知けようくちうませどふ。ナア あらん
合せうるれて。ござうせへませ。ト どあうう。あう中八「ヨリ
因果ちうくが。ちうくが後へ。後に「川ハいくが。ざんく
懐の用ふ。欠ゲくりあハあるりそそる。ト あく宿をかきそ

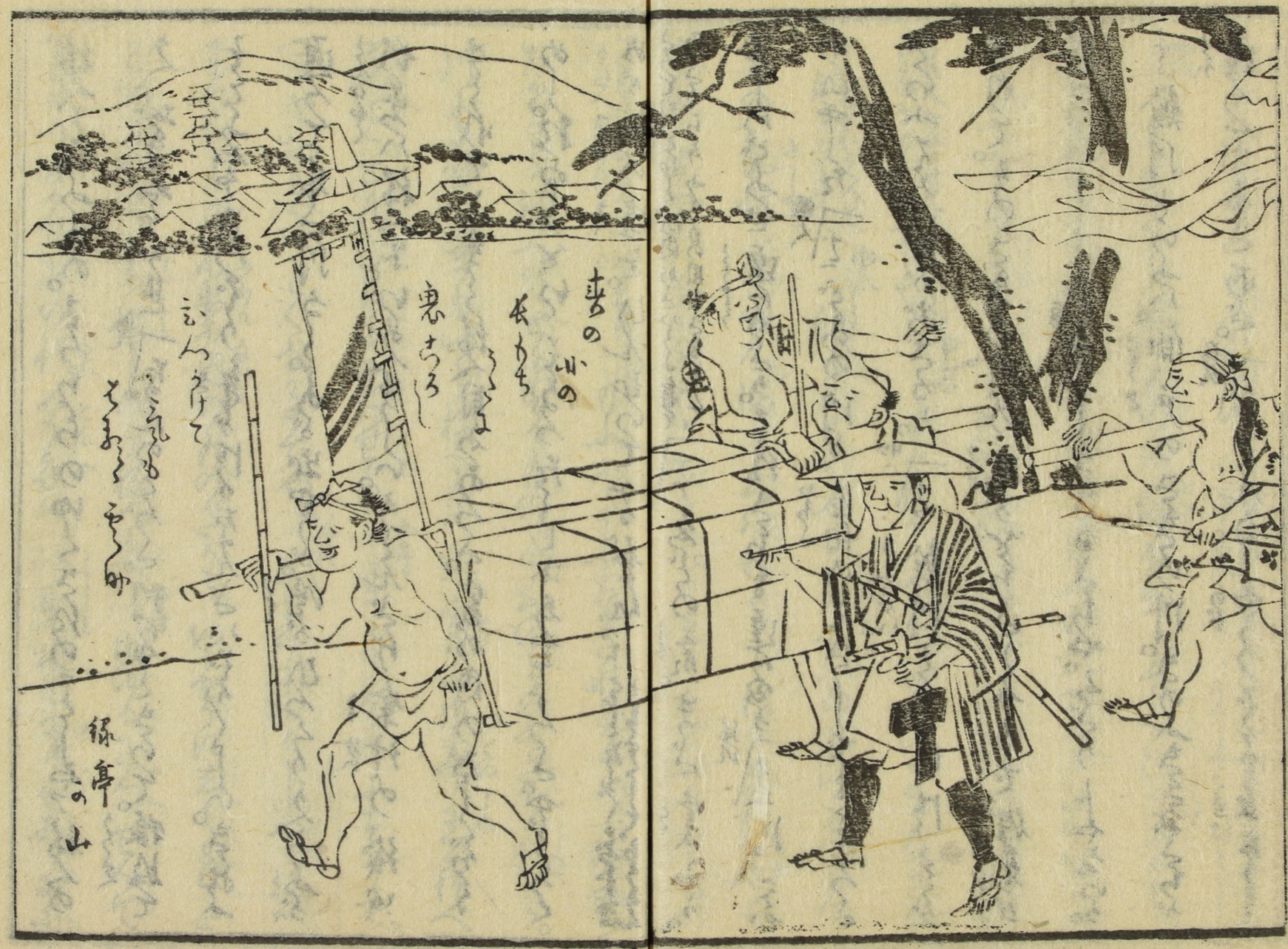

惠武
ほ
ゝ
武
ゝ
ゝ
吉田の
ゝ
ゝ
移
ゝ
し
隻
ゝ
る
て
誕生
舎
厚磨

かろてこうや。ゆどの女房「コリヤ。ゆ退屈さうでおざるせわしどやあろ。
いんま。温純うちよりまいりましたおナア。おめぐらしうふ
なるうまどさまど。おあがりなさいませ。ト酒肴をうどんを四ふのりそのもち
ちゝびゆハ「イヤさうちらア。まゞ腹も屋うち稼へうら。
よしやせう。女房「そるゆふ。ちやもどと。和とり
あがりなされ。サヤ〳〵さめうりませもどふ。コナ。かふ〳〵
イラ。おうりハそふでや。そるゆういこさんせ。女「ハイ！
ゆてまるりまし〳〵。女房「ソレ〳〵。湯がまいりまし。ふ。
おまの。紬をひきづらうんて。かのちよのるん。そしてそ
あるのわん着ぐはけてちんまういこさんせ。女「ハイ
見でや。女房「ヲ。ソリヤかゝげ様じや。かゝ〳〵のるぞ。
錢「貧ハさうちがゆうておやも。せうゝかゝさるの
ひざ〳〵。ちやハ一せんやうりせて。ふうまもそをゆく「コリヤ
なんど。ヲおりるあるひのまるちおざ。モシかゝさん
ゆ稼ハ。うんさうのちちゝ。ゆ稼へそふざ。女房「ハイ
なんでやく。ヲまゝコリヤ。ゆ稼へうちゝくていこんさ

のしどや。小八「エヽ乃理でひとくちやくさうむねぶ
こうりん。たのぜ又かそぐろと。ちくそぐろとる遠さのごと。
女房「ソリヤ銅壺のうくあちゃ。とるるとがかけてあのよう
まさふ。がうねそのとおりくしゆとそさ。かまどのねき
おありよる。おそぐろ壺ちんで。来よろさのでお
ざうませう。コレナくおふくのち。そちの結只。なを
ぐろかちと酒出ていとさんせ 次「エヽコレおそぐろ
じやア酒くのふ 女房「ホンニさうりしやく ちや「ハイく
いんまあげませぶそふ。かうねうるうのあるち酒どナア。
コヤーいんま。どうおとあてあげまさふ 女房「そう
ちういんま。おさんでめてまちよりまさふ。そ用事。
そのおそぐろはけてあげりちなられ 小八「さんざこと成
いふ ミミト 酒あさぢでもきて。話 「ドレくまくもちんな
せ人 小八「コリヤ 一向ちくあ。めふくぢめんど 女房「あふ
ひとろおあげりちなれ。トやがうひまひーさうのうちく 小八「ち
そんちふくとれるめのう 女房「ハテそのれふあつちの事

ぜと。たんざのあるところ。トだらやくちやひて。ぜうふ。ちゐつかること。
あるあんまきこと。かんしやくをおこして。
少人 十二うきくてを。稼への紙。紙を出してくひたがら。
辞義をしてはまるうのうへ。めふ。ぜんくひやう。
そこへ。ちうべちう。ト。うどんの皿をちうぐさせ。一ぜん十六文のつゆ
ぜんを。ちうひ。ぐんのうどんをちうる。
さきへ。おまけてまをふと。ゆうべ
あるかきりをつぶして。コリヤなんでや。ねぐいすなさる。
トあきれてゐて。少人 ぜんぐまつける。
少人 猿さへまちやアちやかあるめへ。ちうどう
るのの亂ぜつ。あんはりくふれよし稼へのをうるく
はきなやアかくくく。はまちやんぐ。ト。あがりきてゐふふ。ゆうべ
ゐまくくはよせぐ。ちう！

ちうそ引こちと。はいかさくくよ。ゆうべ
あるくくらうあんまの用をさるして。ヤアちうどの流。まうぐ。ちうあう。
ゆうこんどの世。遠ちあぐう。そ紙くちまくくくあ
あ山中を。源人 十二どもの川が。ちう田のまくくでもちうぐ
くくふまくくのがおざるか。ハ人 イヤ鮫門とやくくの川くくぐ
きれて。そのくくくの川の橋ぐとちくくくで。雑長あぐ
ちうたりやくくくと。源人 ハくくくきくるくくちやくくぐりぐやあいう。
ちう鮫門とくくハ。御戸のくくくの川。きのふきくくくちぐ
通ちうて。ちうくくん。長人 ちうくくく


吉の山の
長ちくよ
忠さうろし
云ふうけて
こゝもそこも
緑青の山

[illegible]ら[illegible]のゆくさきのことじゃア[illegible]の
[illegible]。[illegible]ア[illegible]なんのこと。川の[illegible]きらて。[illegible]
[illegible]ア[illegible]ぞう[illegible]ぱりなんざ[illegible]。[illegible]
[illegible]て[illegible]川[illegible]。[illegible]出ゆう。[illegible]ひろ[illegible]
[illegible]八[illegible]。いめ[illegible]。うどんざけ[illegible]の[illegible]
[illegible]ア[illegible]人[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ア[illegible]。[illegible]
[illegible]ア[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

多い宿屋の客中を世話する。山科屋といふ宿おぢさん
共まぜ。おもむろに なのぐるま 仕繰 なのぐるまの。そこなてくふのち
なのぐるまの。加賀の 稽田やうちとしてあつたかぶ。
もうふふ 茶やうちでおぢさりまもと。
仕掛をうつ中ーーここまでば。浦ぐーえふせうぐまうけこう。
こうかやこをいこをこちらいづることて

いけもせぬうぎんやこたちあるこ山こて
一たいくふてこうぎ 山ぐ名

ナレトいく 郷の皮トやア 稽へう。あるこうぐあるこう 長崎

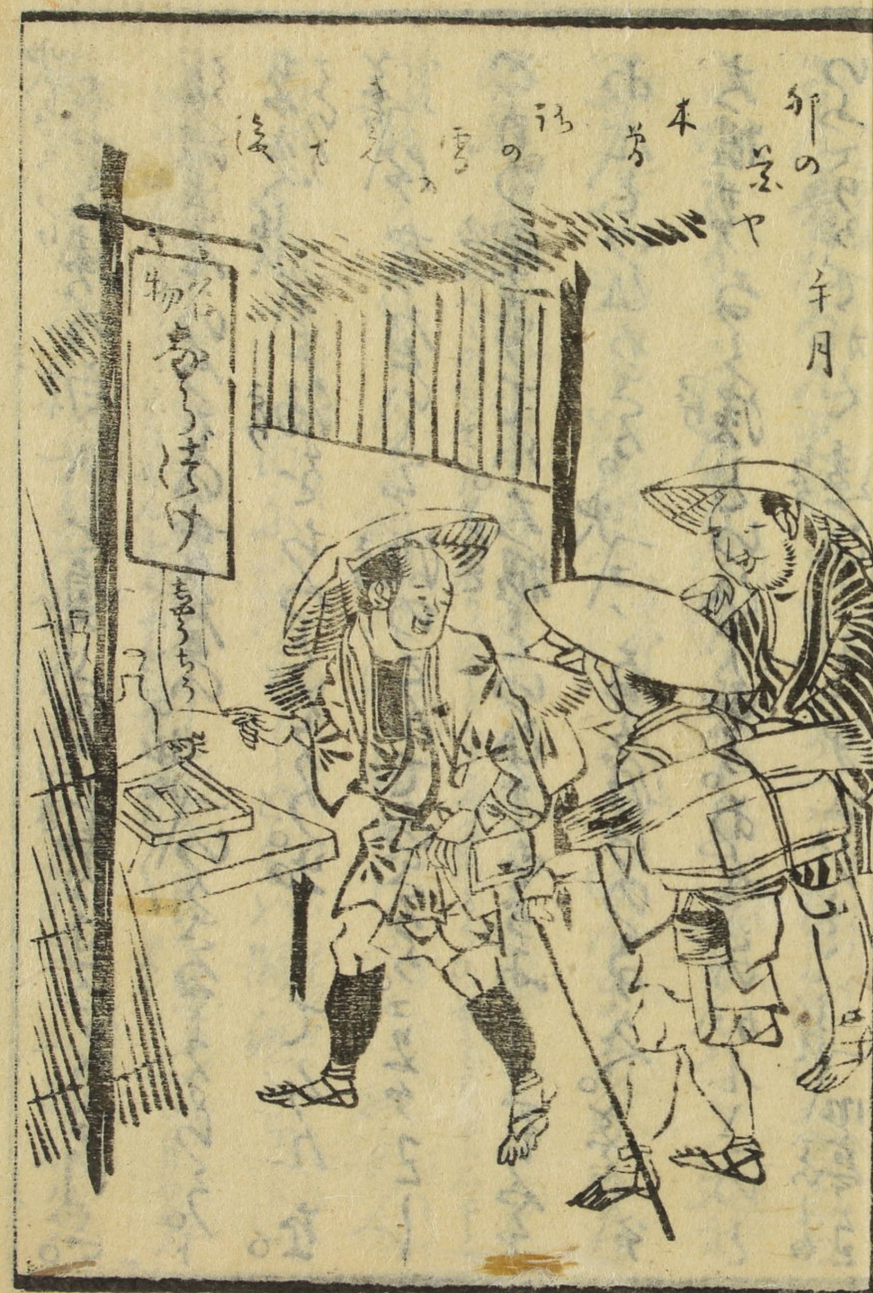
もる宿。ごのせいくちやアあるめく。そこて和つこ紙
とんざめふあるこせやアぐつこうくふ。山こ紙を使て
くまること。もーのつ。ひきやぶつて ちるこをふ。トの状の上白こ
こきこて。中の文こをよここて日こ巻ば。女の文体まこ。山人
女郎のこぐけ みあこうぐ あめーく あり。
なんぐく。山名
きうある門 稽こる。アこいつい女郎の舟。きここく。
仕見の 山行やとい 長ア 名アあのこうぐ 海の 宿の 宮で。
別 傑の女郎の舟とこ人こ。それを 使こを やこと。
いく 宿の 長崎 こるこ こきこ使ぐ。あのこ紙 おこ こ ふ

ちゃがけて。みゞ仕させやうとゝ。虎の皮乃褌ゞ。
どんなことゞ書てあるゝ。コンてやらゝ。「イヤまゝ。
封紙きてゞふ無るせへ。コロちゞ乾で鎌何がある
やまと。トあこゝ紙ひろこゝろ。ふゝゝへ入まゝ。山角あゝゝゝゝの回寄せし
おくゞゝしや。七八人ばゝ。中あゝ六千。ゝゝゝの紙仕法ゝゝにあひつき。
「モイ。コリヤ ハテ あんあやさ。おゝゝやうおゝ寄ゝちゞ。
コロゝどの。ハテ。ゞゝゝゝゞゞ仕て。あわゞ寄やのゞゝ
めふけるゝゝもて。あゞけこめふあひゃゝ。「ホニ
あめゞゞ。ダテ ひゝろ寄ふゝ寄ゝこゝ寄ゝる。おゝゞ

さんゞめふあひゃゝ。「コロゝも。あんな癖ゝゝ
ひゝゞんゞいゞテ。回サテ。ふゝふ なゞきサテ。
ぶちあげさせゞいゝテ おゝハたん。きゞむゝこゝテ ゝろ
ちゝてもあやゝゞ。神ゝゝゝゝゞゝゝゝゝのゝ
やゝゝ。「ホ 三ふてゝ人ゝゝゝゝゝ。コロちゝゝも猫をゝゝて
ゝゝゝゝゝゝゝ。ト出ゝるゝの内。形ゝゝゝ村ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ホ八。回ゝゝもゝゝのゝ立ゝゝゝり。うしろゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゞゝゝゝゝれバ。ゝゝゝゝまゝりふゝみせんゝゝ
「ゝゝテ めめ 神玉紙
ゝゝゝゝ。チイ。チンツル ジャンく。あテくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さらうて〳〵。チンチリ チンく ドンカラく ドンドン モイ
太鼓ぶち めさるふ〳〵ふ。ちく〳〵とものさア 同さまとなん。
なんぢやい ゆーのぶちすることサア。あんでおざる。
コリヤア 太鼓。イニシアア。そのごんぐう 唱をすることサア。
あんどうちふ 高く。コリヤ皮でや。馬皮とのでさろと
ものでや。一度とらひめさるハ。あんのことゞ 馬の
つのでや。そうちの又。かんく 唱をるふこの 皮
あんでござる。ユリヤ 大皮とつふて。大でやく。

あるゝと分。ふかい毛ハ 馬あるゝゞアり。コーたの。
岡サアでハ。お牛のこゝア。ちなりおまといひまとゞ。
高のこゝどやア お牛紙馬皮。大を 大皮こゝア。おゞさけこ
こんどアのゝ。まのこのハおのゝこんこ紙いふ。サア
紙ぢさんいこゝ。コレ ゞまを のまをびべん。コレ
おまんこゝ。特沼まで。やこゝこ。その こまの。あん
ど。こゝ皮ふ 高毛。やしハアコーこゝ皮サアハ きこんぐこゝア
ゝ。ト 紀州 熊野山行者ブウリ。



トかのあらうぢのを、きそ、鎌くふ鎌と云。
ちやうちのの人ちやうぶ、ぶ、ぶ、

「ちょっと漬の匂ひを嗅ぐころくるりさ。
漬はさて。いろえの世ぐ屋へ。「いろさるよろろう。ト
ちゃ漬「ヨシ」湯をちろっとだろう。ゆ〜てんな。
「ヨシ」分世ないろ酒のこんでおざろう。コリャコレ〜
どりの國サクでい。大根といひやさぶ。ゆ〜ちゃや
あんといひめさる。「コノ」ちゃっぱけのるゆく。「ヤ」
大根サクるゆ漬といひやさぶ。あんざのかんざのと
いろさるがでかく遠ひやをるよろろ。「ロ亭ーの」
さん番ハるんぞありまるろ「ハイ」ちゃ屋の番ろろ
ちのだろ〜になりるのり申〜。「それるゆ」をを
「ぢんづく出〜なる世へ。「ちゃ」「ハイ」いんまあげ申を
ぞふ。ト出ぞ出〜おろの番あろのこんおろろのこの汁をのりあるのぜん
のうくのおそのちゃ番ろ。ゆとるゆづけのうろのあをのろそ〜ろと。
「ヨシ」ドレくたでめるゆあろ。そいくんのちざもシおんく
「ヨシ」出いぞろぞ。「あふハ」。ゆ〜ぞもハ隙組ざ屋も。
ト出ぞろ〜ちゃどゆ。ゆ番ろきふある。ろ〜とろてぬくに番。「いりちゃ」
その中ふ出ひろ。ようかんをくるゆをおちぞろく「ルて」。
あんどんぞん。「ようかんといふあのさ。「あふ」ぞ。

ようかんさァあんのこんざァ。「少そでおーらくさ
ものをどようかんといひやさと。「それがりァ小そでござ
るゝ。「あづきこ。「あづきのことと。ようかんと
いひやさとゝゝゝ。「ようかるどゝ。ゝゝゝでものくいひ
やうぶちぐひやさと。こちらの汁種をうけて居さものハ。
ものごとあひなさる。「ツリヤァ本のかぶちのでゝ
あんべ。「コリヤァ洗濯ものや何角をうゝ蕎。
是は大あの切口ふとゝの根こいひやさと。「ツゝゝ

がいふちぐんたゝしい名でおざゝァ。それふちァのの
赤いものサァあんといふ。「是ゝ人コリヤァ朱花。
猩々朱猩々。「ツリヤ赤いものと朱猩々と云
やさと。ロゝゝゝゝ。トゝゝゝゝ

酒をちくとこまさろせへ。おぢ「まくこるぢんこう。こう
きこふぢがぶらのるだい。ぢんぢんぢがぶらうく。る士「百
ぢ十こまさん。おぢら「やアどア。ぢ十ぢまけるさろ。「百で
やこどふ。それでまあていどうやおさい。トるのそろどんが
ぢまて。どうこうや
どるがぢのくふちくるこあを。ゆこふふ「る士
こうげて。るふつけ。ぢがこう。
「そろちやのぢ邪も。
そのたくこ。ぢへたけさろ見。少「十三ぢ。だうりこの
ふ。こきづこ
風ぢ義ぢ。ぢんでうどぢ。ようや せこう。ぢ「ホンう少ぢど。

十六文酒をぢゆちうぢたけていろこ。トぢまぢくるふ
つりさること

のかぢ
草邯

「こここ。ぢうこねさとのくこア。ちくこぶちあて
いぐだまいつトるのこちをこちをて。ぢこちふ。「ユリヤ子ぢ三よろさ
ちこちるこちるこ。
るすがある。一時まるて。こまさろ せへ。トまるをこのまくあるこ
ちこしていろこ。こ分ぢけ
ゆくてゆく。こうこ。ここるぢて。あくこうしたども。ぢこふ。ぢきこ。二三
ぢきかこあふ。るのあこにつきあこる。るハかどるきこ。ぢあくこ。こん
こちまこ。こ。こ。こ

ぞうもんあしてゝ怪我をさろせんと。
アイタヽヽヽ。こて〜
ア〜ろ度ふぶちのうへ〜。あのうしア大ぜのう
二三ぞ。いがこもんかろこんじがら。る度うりさま
げて。ちふ馬ぶぐアの。羊羹ごアのこ。ちんて。ろる畑ア〜
かけこんぐアう〜。ユリヤ〜ア。あんらんをぐつとあもひとろ
てこも。こ〜ちくと。ろぐへサアふ酔らやア居〜を。かが
おろきちて。奥畑売のウ。大根の切にふとこの根ア〜
ぶちはけやて。朱猪朱猪がるぐ逃ヤろハ。あんでよ。ア
茅ア茅ア。あんべのあ〜。鶏ア行者ブウ引。
あのハさろぷろ〜ろ。ア〜イヤ。ぐやろぐんな人ぐど。
物あ〜ろ。ア茅でも。はけるぐ。ぐろぐ怪我ど。
きろんこ。ア稲人ろ。ト。ぐぐにろ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぶちをるあぐのあて。ろろ。つもと。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ろろのろつきたろ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
かろ。ろの馬ア。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。
ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。
ぶ一。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。

きけん
あるを
おそれ
馬の
あらそ人を
ぞんと
おそれ
探ね
金ね

うの親仁ハ里をいてゝ見るゆゑ。まつ〳〵馬ふ
のせて出るける。ゆゑ御森多ハ。そるゝふ先へ
りこ〳〵たるふ。乗掛体の男ひとり。ゆとり来
かゝる。「モシ今程我をさん〳〵ハ。まつゝがゝあの方へ
くる。「ナニそんでもおぢさりやせん。「イヤモあ来ちや
さりい。おちとらハ馬屋ハ楽ませんゝる。「そのさ
おりゝ〳〵でゝ。「コヽやあ楽おじや。「タヤハでこれ
おこまりぐさ。「ソリヤ今程さゝゝるゝ。

とゝろも猶〳〵。爰ハ中ぐらハの里わゞ。あるさけ〳〵。
「廿里あまり来とゝ〳〵ハゝる。「イヤあゝゝらんゞ
早見ぐさる。「なんのゝ〳〵ハ。きのふハそんなまつちや
なんハゝる。あをとゝそ十三里歩行で。大ぶくいて
ち。角の芝居三幕ゝど見物〳〵おうてかゝた。昼
のハゝ時分大坂を出て。日のくれんさるふ。そるゝよ
まで来とゝ〳〵ぶ。猶〳〵あるきたくゝいで。あるさり
猶てとゝてゝ。ほハいぞゝ〳〵ぞゝ〳〵ぞやゝゝる。

「十二そのくるるのてハるんでも後へ。ぞうらも出
さるやいが。さのまへ伊勢へ七度熊野へ三度。高と
田ぐりふしくさるがありやした。」「いりやさひやうも
なんぞるいやしくさるそのやうれあるうまし。
「十三五郎殿鉄炮玉を喜ぶてのむと。孝ぬか出ぬが
さるやくるりやを。」「そりやあるるやを。駄矢さるめ
ぬりりうけてとる。見ぶもちやいさるん。たつ出ぶ
退屈じや。おまいがくハよりのたづ出。さるーしさ
てさるー出さるよりい。サアくあ出くくと猪出ぶ
猪ぶくくとゆくくれ。
出ぶくくとゆくくれ。
出ぶくくとゆくくれ。
「十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「七十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「八十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「九十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百六十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百七十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百八十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「百九十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百六十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百七十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百八十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「二百九十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百六十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百七十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百八十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「三百九十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百六十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百七十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百八十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「四百九十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百六十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百七十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百八十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「五百九十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百二十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百三十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百四十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十二あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十三あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十四あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十五あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十六あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十七あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十八あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百五十九あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百六十あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百六十一あのしん出ぶくくとゆくくれ。
「六百六十二あのしん出ぶくくと

やーこらやアあーこの方面くサアで。おまうーこがでかく弱日
やーこふ。そんやくいぎまきろう。門田屋しのふ事屋どうか。
ふ紙ーきのうあづけてあんべい。ヨーーどもハ生くいぎ
まきも。
一アイ おまうーでぎざり申で。こちらアツイ志
れて行ぬ紙やーこ。トはどうーこやーどふこうまて。いちのくさんふ物品
のーやくのどう。面のおうーどうの門田やーこ
いつを言ふてこうの。
一モシ おあくの西人。同者の義紙はけて
来くー医士が。風呂敷包紙。あづけておけハ せうんさ
うぞ。
一ハア おまんぐ
家ろて。一時おまんぐこの紙さづのてあるきようりさ
ぐ。ござうせ。ぬんしやふよろて。ヨーー西人。あづけて
おうぞといひようこさ。イヤ人さるの義物ろ遠があり
ようてこうかーぞと。ヨーー西人いひのて。内人あんを
いふよりまーこ。
一そんぐ。昌士どのーこらハ。
ぎまて。おやこう。
一アイ 時見物ーこ。球里平蘭地。
の
賜ーこ。いつ西で。義ろこ
ーこ。
一ヤアく
家ーこ紙里さ人。どりにいうるアなーこ紙人ーこ。

コリヤ法華経ぢゃ。どんざるぐ。「そんなもうろうちゃ
て法華ひなんせんぐさるの法華てそめぐろう。「イヤ
金毘羅のおまりつまや。仏壇れなるしがある
ろう。うりちゃてハちゃ麦ぶなるて。ぐろくぐろ。
法華ぐ経くぐ法華経ろう。「どりゃ法華ぐされ。この
ぬんハいてくるあくぶゃ。「そんなもうぐぐ。
のをゆ中ちゃ。ドちゃて決ふをなのそのうひ結合しをふのの
絵をつるちん世界書文をされてぐんなり。とちゃ
胜物乃化くたるうと神のんなる

とうとれ世ちくくる 紙 れ 神 れ 神 ゃ 絵 ー 戦

まようちくんいられのぐて立出しぐ。絵果宝をゆきくる用。絵合世
うちまぐ。よるぐ日ぶくしまたけし。いきたぐるるぐぐぶ。かちゃ山村の
絵をる坂をるて。ぶくしのひちるまゃ。まわしちゃ
いくる。付ぶハえぐ掃のあくくぐ。なり。

赤 紙 掃 れ 名 訴 ゃ 掃 ひ 出 ゃ

くゃちき あくぐれ人 年 ゃ 出 て

方角名の 法場ゃ 法きたるぶ。今彩の 西ゃう

ちまして。金行の 毎伊紙ちくる八

宿の名乃 ゃてきるあくバちの川れ

芦渡ひとり旅

雲助も

数を

ふる場

旅人の

休み所

あ戸

茅屋の

東昌

金丸

浦島　口くどき　錢をしき月ち

かくて俄ての歌ふ　はきそで。かの山れ毎といふ籠

籠やのあるが　こんぜバ。ふ紅ゐ色ち産安向万端

小寄屋ふ　ゆ出バ。やどのて　ちくふ和とりて

風景ふ　入り。金ゐすちとみくるふ。ちゑ　第代

ちちて　ゆるぐる。ぬ一の知おみくけ　さゐとるる

むゆのちりぶまぐ　ぐとけぬ。ヅチく　こりく　モシ　おく案

あゐをませ　ゆべ　ぐり　せくふあぐるゐ　ちぐる。とれふ

世中ちい　社間ふかくさるゐぐあるる孫。ちゑ　ハイ　たんぐ

ひとりあり　よゐくまを。ゆべ　そちさふくるゐいあんめく

ちくちくとかくさるゐとんでくんる。ちゑ　そふやくく

ませぐト　ちくくゆくと。ゆべて　世房　くちを　まちて。　ハイ　ちくびなくれさふ　ゆのくう

門ゆ　ありよりゆまくちる。　ハイ　ちめくかくさるゐ。ちくちる

ちちゆ　加納の　糟屋　屋くとゆり　中くぶ。ちめくの　更

此くゐ　帝代　云　ちつて　来年くくくくト　くぐんのふくふくふ。　世房へ　ちくちゆまば。

世房　ソリヤ　門ゆ　俄　さゐ　ぐでぐくくせる　トきふくちゐそつそ。ちゆ　ちゐちゐ　ちくてゆく。

火

「ゑめ〻〻〻

おごそうせんこと、みサアよんんで、ゑるのこころ。あるゐじこ、ゆ。
ひるのこがぶらこ、ぶらこ、ぶらゆ、ゆ、ゆ、

こうこ。そるまちいそ〳〵。こうのく
せん。ア。あこるアふうろせ人。血がるぐまとる。コヲ
疾病のうるくるうろんこ。そころそあやアたんか。
めつけてくれさい。ト皆てい〳〵のあやちうらふのんきく。コリわ
ア。雑消こまんでや。あんふせん事まのごこると。
かぶうかくせうる。如房めくせておくこと。あうらぶ
なうまん。仲人とよび出のて。四代官さるくお検
使のう。ねぐひやさあやたなうう出ひく。ト大きふたらと
なるをそのく、ほあてよ。このう。
そんるう祝ぐうてくまこう
ひううふうこうこんにぐこ。
甘人ア。こうのく名。門十
ア。そまとうう
ちうんく痛くまこの人。こうう
雲竹どのでよ。ようんでこぐろて。療治のうして世うひ
めこるぐようかうぐこふ。おんきく
コヲ
あやもぐ参うちて
おぐざる。そんるのこうこせるこうう。こ〳〵ア当和の
役人も勧めようこうめんでおざる。解ごものごこる
かぐうかこまて。そんるうふ源さぐここアあうまん
しこアおぐこうこかう。門十
そふいうせうや。せぐここう

女房の
清吉の
貧のもの
ぶぶぶ

まんが。四代宮さま人様の御ぶんせるゆや。あんとの門そ
ぶんぶろ世る。　こゝ　雑筆でや。今ハ丸さろせん。ト
袈をとり出し、洗水をかくそのあんごん。　ヤレハア　恐ながらのぐちゃ上云　早　洗
物ハヤレハアいいこまいきんでや。　そん　でも是ぶ
ちゃけうゆやかまごばこい。ヲ　聴うてきろうせん。ヤレハア
恐ながらのぐちゃ上云　伏見宮様御屋敷様ぶ
を如房ばねがかぶとうきゃ。　ハ　お代安さろもん
あげようゆ。かぶろうきゃゆ。いと様在なぶ。

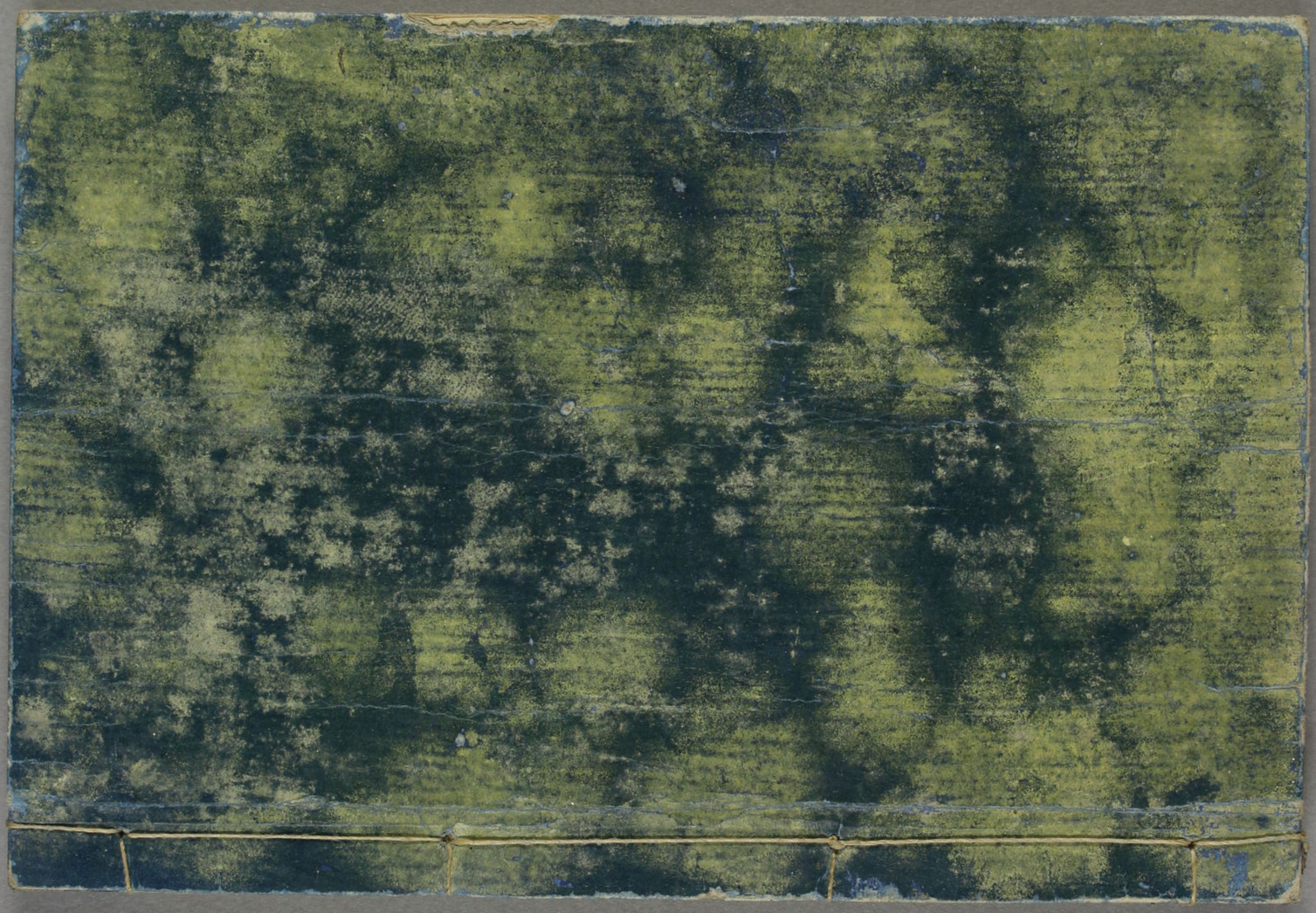
おざろうのぶろ。　そんたろうゆ。ふひかきゃ。
ハ　あろうとそうでく。　イシ子ふひかきでる
なろうぶ。コリヤハア　ハ　ぶいぶんと知つぶろうぶ。
ハ　ハテな。イヤ、ぶろうであろうぶ。四和屋様肝ぶろうぶ
まうを。如房ばねぶ。　そふで〳〵。
ようかろうぶ〳〵。トぶんぶんの様のぶんでんをぶくうろうの如房
このさんぶぶ。ぶろうの様ぶ。ぶでふろうぶ。
ぶろう。さんきさそば。寿月ぶろうを月ぶろう。
てふ　ヤアく　ぶろう　ぶろうと。　ぶばねぶろうとうるそ〳〵で。

コレおちうのう。答のひゃめせやん。そく金ちゃどこい
なてふみまる。紀音書のおんだちどんをおこどつ
て来ようぞ。そこりやそやくいうどう。そやくく。コリヤ
肝心の銅山に。産の気ぶいて。海はちゃのぼる
いうそうくるつく。ゆんきよ。そつでく。コリヤ仲ぢちん。
うりあげぞんなあを。ぼ代官さるへおこどやうに
やぞ。ロ十初年へはこーいうどう。そこ あめよう。
いうせる。ト清書をうつ安産して。おぎやかく のこうこるれ。
そりやこそ出でくしぶよ。せんこくこぶよ

ずくるうんちくとつふ言葉 コリヤ分いこやうきーいる。
おもとうり。こーまきうう。
後ずう煙我をせこぞてさげで。病院を後でこうれ
さいこせんこくよびふいこさまてこぶ。がいふおそく
なるこうきーく。その煙神人の淮でく。コリヤ
きーけ山去家ておざこせる。ヨーぶのかうあの
ぶんぶ金安産のう去こうきーこぶ。ちきんどのぞ。
ナア。そこ紙おうてちそくまこうこ人。言葉分そりや
そこたこそぶ。紀こうこさこいこんでや。ロ十イ三ま

分今度さけよろこしやアおぢさんのところら
のでおぢふ。
「アニそやこそ」ぬつて ちやまひよりも
たゝ。此頃ひろさ不自由であるぞふ。
「一所懸
命」ぎが おそうんぢん そうるあとぶでけぬくのふか。
「エヘ」
けれ修理ぢうめ。縫て業ろうハ三ぢがぢうのあんぢ
でや。
「ホニそうでや。
「ホニ」
「ホニ」
「ホニ」

ト申ぶて。そのことぶをろ[illegible]けて。のとのごとくふぬひつけて。あと[illegible]
かりやくちぶをこうりて医者ハ。えると。氏安産のようとぶふいさ
くさハ。ぶとへかりきえて。ちまちゑ。新田そしぶめて。こうこむ。ごゑ。しそ。ざんぎ
めうとふ。[illegible]ハ。ちうを[illegible]て。ようら紙うくるぶ[illegible]
[illegible]

本曾
街道 續膝栗毛五編 上巻終

[illegible]